

深い学びの 実現に向けて (創造教育)

台東区立上野小学校

校長 神田しげみ



- ①新しい創造をする能力を身に付ける
- ②創造されたものを尊重する態度を育む



- ①自分の思いや考えを文章や絵などで表現する力
物事を比較し、同じところと違うところを探し出す力
将来像を描き、長期のビジョンを考える力(適応する力)
- ②創造物が先人の生み出したものや発想を基にしていることに気付かせる。
地域の伝統文化や芸能には、継承されてきた先人の知恵や創造物があることに気付かせる。

「深い学び」の実現に向けた指導法の工夫



研究仮説

「深い学び」が実現される指導方法および評価方法を明らかにするとともに授業改善を図ることで、児童一人一人に「資質・能力」を育成することができるだろう。

主体的な学び

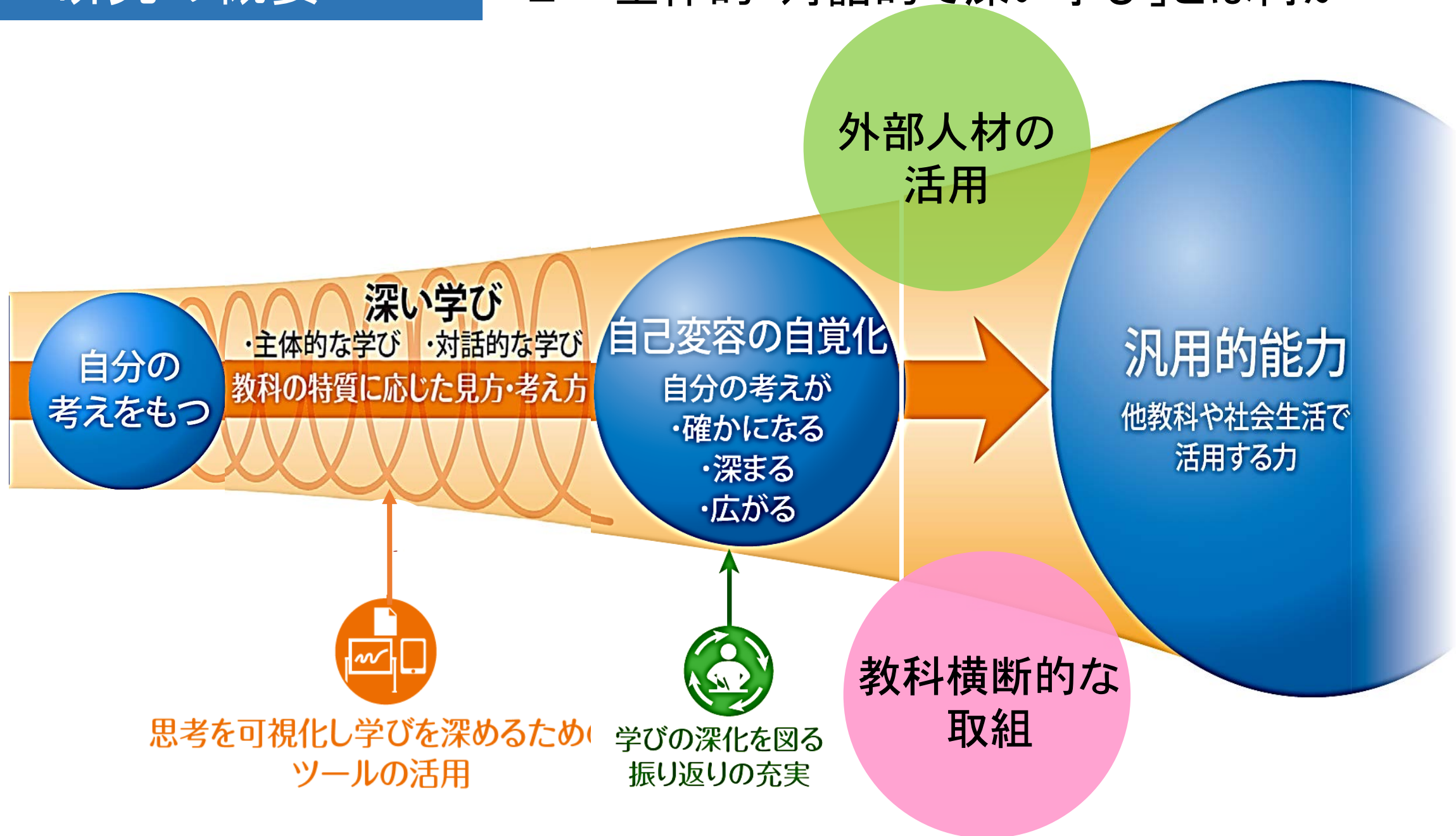
対話的な学び

本校における「深い学び」の姿

課題意識をもち
自ら考えすすんで学ぶ。

思考を表現し、
考えを深め広げる。

学びによる自己の変容を
自覚する。



学びの深まり



思考の活性化を図る
課題設定の工夫



思考を可視化し
学びを深めるための
ツールの活用



学びの深化を図る
振り返りの充実

学習過程

研究の概要

3 研究主題に迫るための手だて

思考の活性化

思考の活性化を図る
課題設定の工夫

＝課題に向かって本気になって頭を働かせること

興味・関心を高める課題
教科としての学びの価値がある課題

身近な事柄を
基にした課題

相手意識
目的意識
のある課題

児童の
思いや願いを
生かした課題

児童自らが
設定する課題

既習事項を
生かした課題

おもしろそう！
やってみたい！



研究の概要

3 研究主題に迫るための手だて

相手意識
目的意識
のある課題

思考の活性化を図る
課題設定の工夫

《第4学年 総合的な学習 の時間の実践》

目的意識

上野の町のよさを伝えよう

相手意識

全校児童・保護者・地域の人



課題に向かってすすんで
考える**必要感・必然性**



第4学年「伝統文化を生かす～上野の町のよさを伝えよう～」

インタビューによる聞き取り

職人、寺、町会長、観光課職員などから聞き取る
アナウンサーからインタビューの仕方を学ぶ

タブレットPC

メモ、振り返りに活用

新聞

新聞にまとめ、学校・保護者・地域の人に読んでもらう

第4学年「伝統文化を生かす～上野の町のよさを伝えよう～」

インタビューによる聞き取り

アナウンサーから聞き取り方を学ぶ
職人、寺、町会長、観光課職員から

インタビュー魔法の言葉

- ①もっと聞きたいとき
- ②自分の気持ちを伝えるとき
- ③確かめるとき
- ④相手が困ったとき



第4学年「伝統文化を生かす～上野の町のよさを伝えよう～」

タブレットPC

メモ、振り返りに活用



新聞

新聞にまとめ、学校・保護者・地域の人に読んでもらう



学びの深まり



思考の活性化を図る
課題設定の工夫



思考を可視化し
学びを深めるための
ツールの活用



学びの深化を図る
振り返りの充実

学習過程

研究の概要

3 研究主題に迫るための手だて



思考を可視化し
学びを深めるための
ツールの活用



可視化されることで児童自身が思考を
整理・分類・関連付ける

見えない思考を
可視化するツール

ホワイトボード



ピクチャーカード



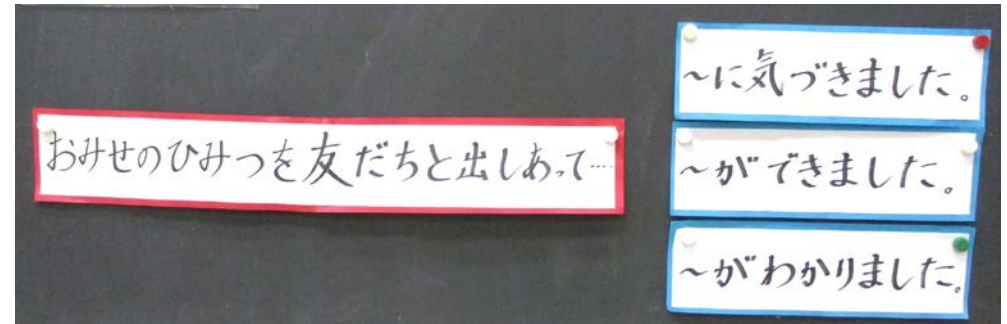
付箋



タブレットPC



児童の表現力を高める
学習モデル



研究の概要

3 研究主題に迫るための手だて

付箋



思考を可視化し
学びを深めるための
ツールの活用

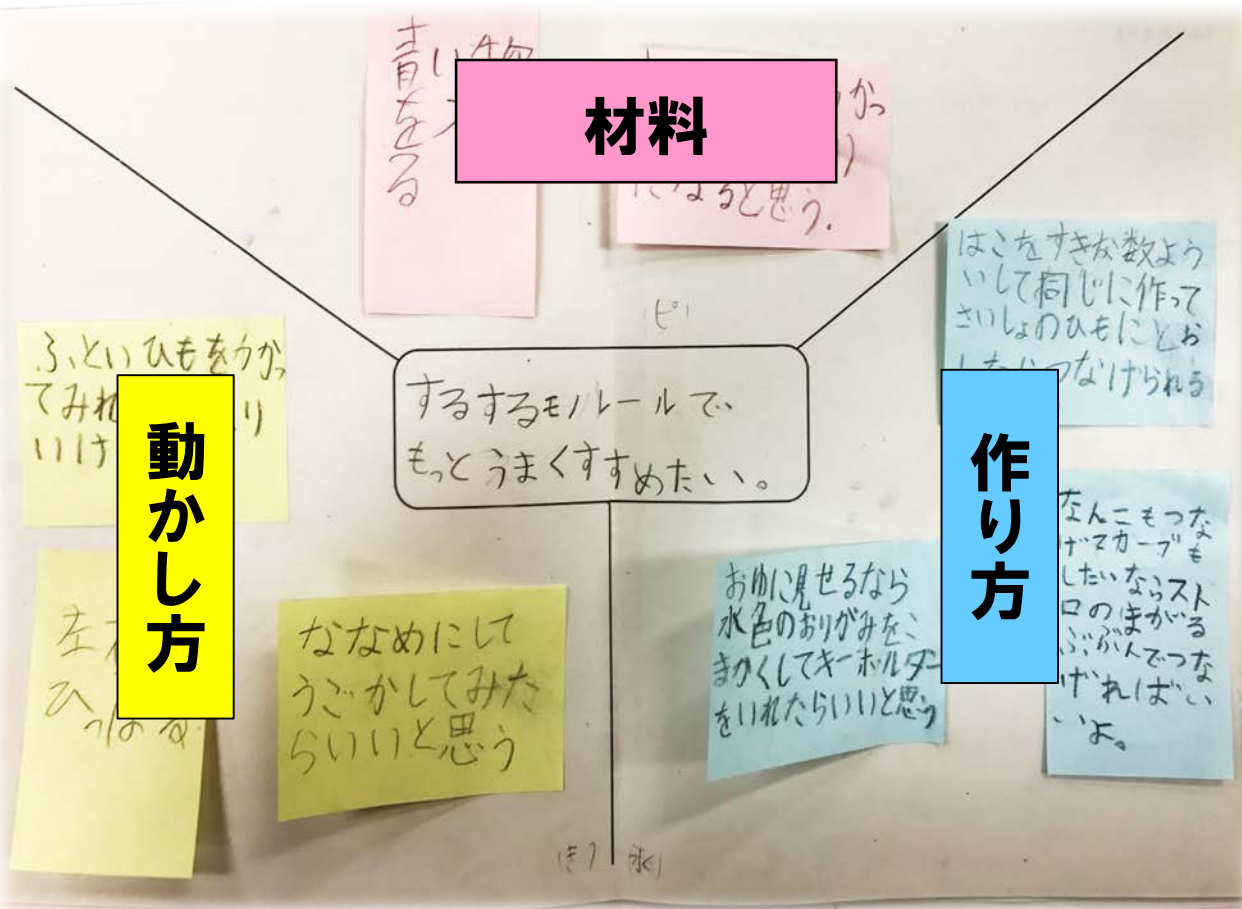
《第2学年生活科の実践》



おもちゃをもっと
速く走らせるには
どうしたらいいだろう？

児童の表現力を高める 学習モデル

～を・・・に変えたらどうかな。
～に切れ込みをいれるといいよ。
～のように手を離すと速く走るよ。



第2学年「作ってためして～おもちゃ大会ひらこう～」

児童の思いや願いを生かした課題設定する

身近なうごくおもちゃを作りたい
(ゴム・磁石・風などの力を生かして)
1年生と一緒に楽しもう

附箋とYチャートを使って話し合う

自分の考えを視覚化する
分類・整理しながら話し合う



第2学年「作ってためして～おもちゃ大会ひらこう～」

動くおもちゃ作り

パッチンがえる
トコトコかめ
ぱたぱた車
ポンポンロケット
ころころりす
するするおさる



第2学年「作ってためして～おもちゃ大会ひらこう～」

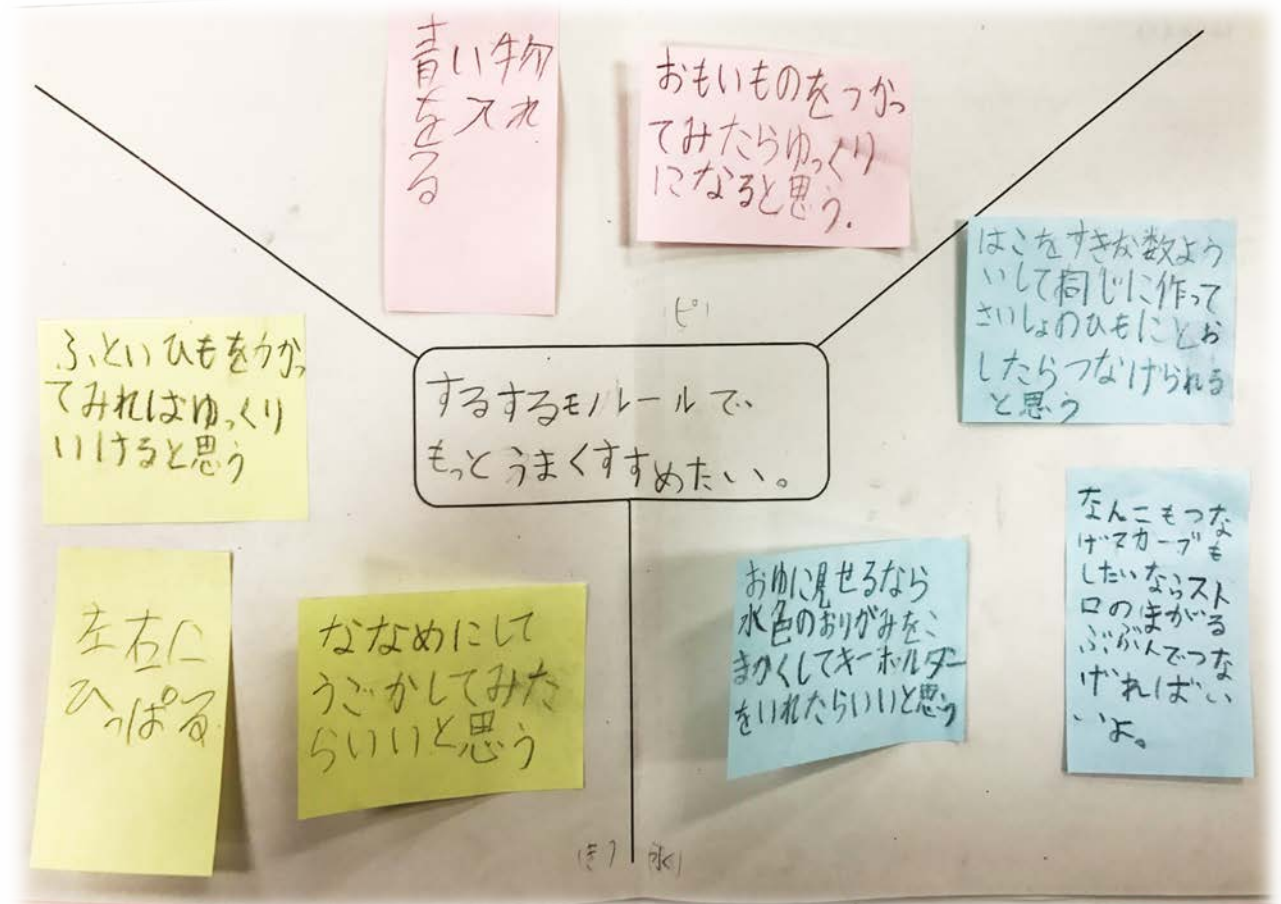
附箋とYチャート

多様な考えを生み出す

自分の考えや友達の考えを視覚化する

考える視点を明確にする

分類・整理しながら話し合う



学びの深まり



思考の活性化を図る
課題設定の工夫



思考を可視化し
学びを深めるための
ツールの活用



学びの深化を図る
振り返りの充実

学習過程

研究の概要

3 研究主題に迫るための手だて



学びの深化を図る
振り返りの充実

- ~が詳しく分かった。
- 友達の意見を聞いて
~に気付いた。

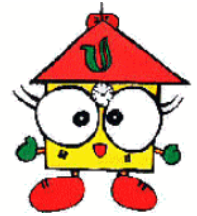


振り返りの視点



学習を通して得た**新たな気付き**や
さらなる理解について自分の言葉で表現





ぼくたちわたしたちの オリンピックマーチを作ろう

カリキュラム・マネジメントの
三つの側面

外部人材
の活用

教科横断
的な取組

PDCA
サイクル

総合的な学習の時間

国語

- ・ 歌詞に使う言葉を集める。
- ・ インタビューの方法を学ぶ。

外国語活動

- ・ 英語でのインタビュー内容を考える。
- ・ インタビューカードを作る。

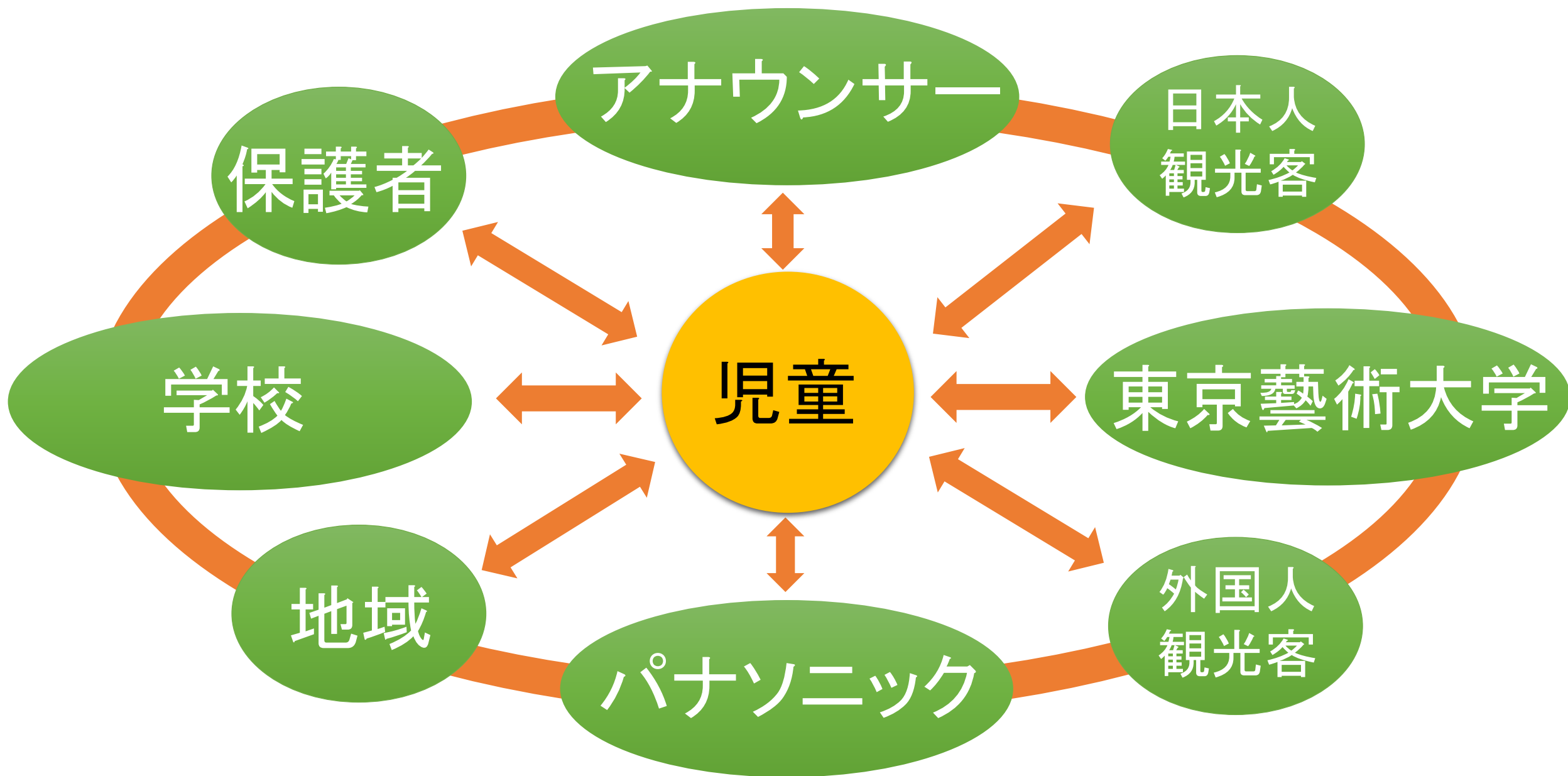
音楽

- ・ メロディを考える。
- ・ 音の強弱・高低、リズムを考える。

社会

- ・ 情報について学ぶ。
- ・ 映像作りに挑戦する。

オリンピッククマーチ
を完成させる





4・5・6年生による
東京藝術大学奏楽堂
での合唱

全校児童による
本校音楽会での合唱



- 課題設定の工夫により学びに対する追究心が向上した。
- 思考ツールや学習モデルを活用し、自分の考えを表現したり伝えたりすることによって考えを深め広げることができるようになった。
- 明確な視点を示すことにより振り返りの質が高まった。
- 思考の活性化を図る思考ツールなどの新たな開発。
- 他教科や社会とつながるようなカリキュラム・マネジメントの意図的・計画的な設定。





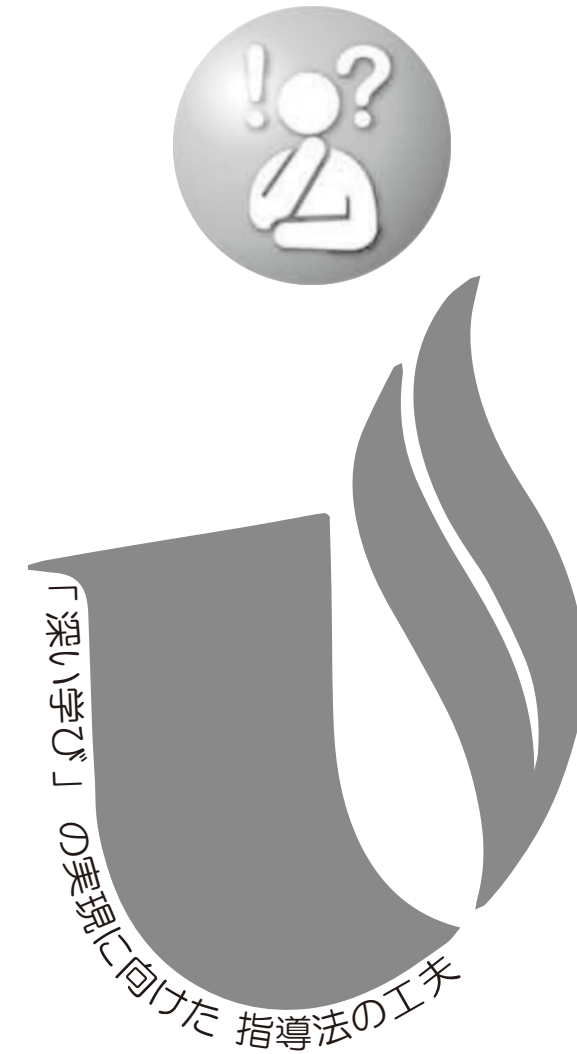
御清聴
ありがとうございました



平成 28 年・29 年度 台東区教育委員会研究協力学校

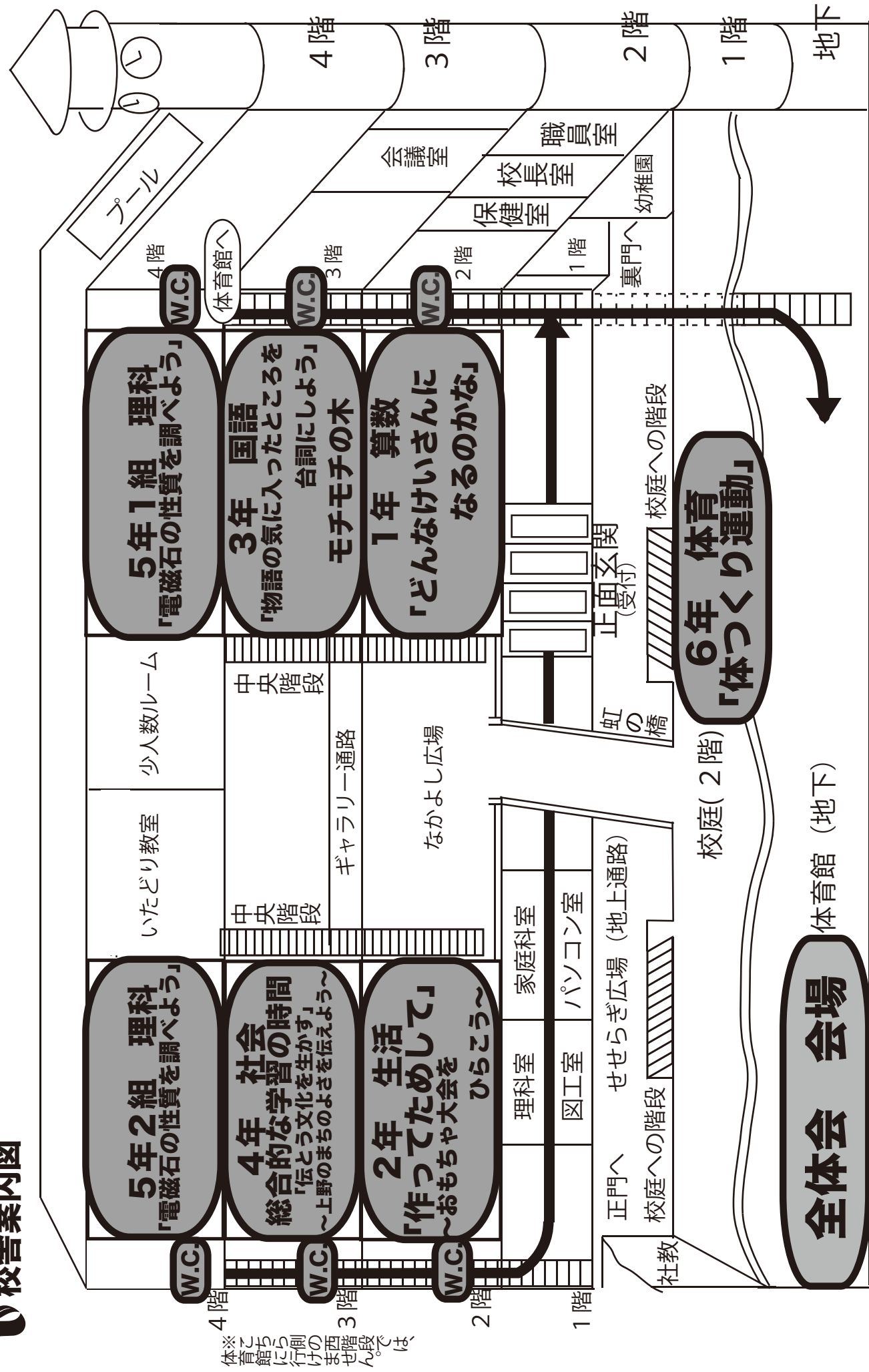


学習指導案集



平成29年11月22日
台東区立上野小学校

校舎案内図



※こちら側は、体育館へ行ける階段です。

マーチ 〈明日〉

作詞・作曲：平成二十八年 度 六年生
 作詞指導：成田英明先生
 作曲指導：松下 功先生

一 ごん かーん くおん わーん
 ごん かーん くおん わーん
 お寺の鐘の音 朝日と呼んだ
 スカイツリーが背伸びして 五重塔が踊りだす
 りんりん しんしん りんりん しんしん あめよーん
 桜のトンネル 抜ければ明日
 鯨泳ぐよ 青空に いちよもみじの 波の上
 わっしょいわっしょい えほえほ じやばじやばん
 河童だ 狸だ 人間だ
 ほくらはみんな 宇宙人 涙も笑この町だ

二 Ding Dong Ding Dong
 Ding Dong Ding Dong
 平和の祭典 古代のギリシア
 虹を渡つて やつて来る 世界中が手をつなぐ
 ランラン ジャンプジャンプ ランラン ジャンプジャンプ

鍛えた体と 折れない心
 汗が輝く この額 弾む心に 青い空
 はらはらはらはら ときどきときどき きらきらイェーイ
 大陸 大洋 大空だ
 ほくらはみんな 地球人 涙も汗も明日のため

三 ごん かーん くおん わーん
 Ding Dong Ding Dong
 お寺の鐘の音 朝日と呼んだ
 虹を渡つて やつて来る 地球を巡る 心の灯
 りんりん しんしん ランラン ジャンプジャンプ

桜のトンネル 抜ければ明日
 汗が輝く この額 未知の世界が目の前に
 わっしょいわっしょい えほえほ きらきらイェーイ
 河童だ 狸だ 人間だ
 ほくらはみんな 地球人 涙も汗も同じ色

時程

13:20 13:40

14:25 14:40 14:50 15:00 15:20 15:35

16:25 16:30

受付	公開授業	移動	「マ 明日へ」 合唱	研究報告	ト ーク セ ッ シ ョ ン	指 導 ・ 講 評	講演会	謝 辞
----	------	----	------------------	------	----------------------------------	-----------------------	-----	--------

公開授業一覧

学年	組	教科等	単元名	授業者
1年	1組	算数	どんなけいさんになるのかな	岡田 恵
	2組			梶野 智江子
2年	1組	生活	作って ためして ～おもちゃ大会をひらこう～	武井 二郎
	2組			中村 久美子
3年	1組	国語	物語の気に入ったところを台詞にしよう モチモチの木	伊藤 麻理
	2組			平子 菜摘
4年	1組	総合	伝とう文化を生かす ～上野のまちのよさを伝えよう～	柴田 直樹
	2組	社会		栗山 智子
5年	1組	理科	電磁石の性質を調べよう	諏訪 智春
	2組			T1 鈴木 陽介 T2 阿部 亜季
6年	1組	体育	体づくり運動	宮田 花
	2組			佐藤 秀人

目次



校舎案内図



時程・授業一覧

「深い学び」を生み出す15の技法

第1学年算数科学習指導案・・・1年1p～9p

第2学年生活科学習指導案・・・2年1p～8p

第3学年国語科学習指導案・・・3年1p～6p

第4学年社会科・総合的な学習の時間

学習指導案・・・4年1p～10p

第5学年理科学習指導案・・・5年1p～10p

第6学年体育科学習指導案・・・6年1p～7p

マーチ「明日へ」歌詞



「深い学び」を生み出す15の技法

	技法	特徴
A 内容を深める	①資料やデータに基づいて考察する	思いつきや勘だけで答えをあてるのではなく、資料やデータに基づいて自分の考えを形成する。
	②学んだ知識・技能を活用して思考や表現をする	これまでに学んだ知識・技能を活用して、考えたり表現したりする。
	③複数の資料や観察結果を比較して結論を導く	複数の資料や観察結果をもとに、それらを比較し共通点や相違点を検討して、結論を出す。
	④友だちと練り合いや練り上げをする	ペアやグループでの対話を通して、考え、作品・パフォーマンスの改善課題を出し合って、練り上げていく。
	⑤学んだ知識やデータに基づいて仮説を設定・検証する	思いつきや勘だけで考えるのではなく、学んだ知識やデータに基づいて仮説の設定や検証を行う。
B 技能を高める	⑥異なる視点、逆のプロセスから考える	異なる視点から考えたり、逆のプロセスから考えたりして、人間の心情、自然現象、社会事象を深く理解し表現する。
	⑦異なる多様な考えを比較して考える	自分とは異なる多様な考えや意見を参考にして、自分の考えや意見を、根拠や論理を明確にして形成する。
	⑧理由や根拠を示して論理的に説明する	思いつきで何となく考えたことを話すのではなく、資料やデータを引用しながら理由や根拠を示して説明する。
	⑨学習モデルを活用して思考や表現をする	思いつきではなく、学習モデル（思考や表現の型）に基づいて思考や表現をする。
	⑩資料や作品を批判的に検討する	既存の資料・作品の正しさや根拠をそのまま受け取るのではなく、他の資料やデータにあたって批判的に検討する。
C 関連づける	⑪学習成果と自己とのかかわりを振り返る	学習成果を客観的に示すだけでなく、そこで得た学びの意義や価値を自分の考えや生き方と関連づけて考察し表現する。
	⑫原因や因果関係、関連性を探る	自然現象や社会事象などの表面的な特徴だけでなく、その原因や因果関係、他の現象や事象との関連性について探る。
	⑬学んだ知識・技能を活用して事例研究をする	教科書や資料集にある一般的な制度やシステムの理解だけでなく、その知識・技能を活用して具体的な事例研究を行う。
	⑭R-PDCAサイクルで活動や作品を改善する	ただつくって終わり、考えて終わりの学習ではなく、R- PDCAサイクルを通して、活動や作品の改善を行う。
	⑮視点・観点・論点を明確にして思考や表現をする	ただ邊然と考えたり対話したりするのではなく、視点・観点・論点を明確にして、焦点化した思考や表現をする。

第1学年算数科学習指導案

日 時：平成29年11月22日（水）5校時

場 所：台東区立上野小学校 第1学年教室

対 象：第1学年1組31名 2組32名

指導者：岡田 恵 梶野 智江子

1 単元名

どんなけいさんになるのかな

2 単元の目標

○既習の加減計算を活用して問題作りをし、加法・減法の式に表そうとしている。

＜関心・意欲・態度＞

○加法や減法を適用して問題を解決することを通して、演算を決定することができる。

＜数学的な考え方＞

○既習の加減計算が確実にできる。

＜技能＞

○加法・減法が用いられる場面を理解する。

＜知識・理解＞

3 単元の評価規準

算数への 関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての 技能	数量や図形についての 知識・理解
・既習事項を活用して、絵を見て、具体的な場面を見出し、加法・減法の式に表すよさに気づき、適用しようとしている。	・具体的な場面から、その場面は、加法・減法のどちらの場面なのかを考え、演算決定をしている。	・1位数どうしの繰り上がりのある加法計算・11～18から1位数をひく繰り下がりのある減法計算が確実にできる。	・絵から具体的な場面を見出し、加法・減法が用いられる場面を理解している。

4 指導観

(1) 単元観

本単元のねらいは、加法や減法を適用して問題を解決することを通して演算を決定する能力を伸ばすことである。

本単元では、加法になる場面や減法になる場面を絵を見て考えたり、問題を作ったりした後、絵や図、式と結び付けていく。繰り上がりのない加法、繰り下がりのない減法で学習した問題作りを発展させて、問題を言葉で書き、具体的な場面を簡単な絵や図を使って表し、式と結び付けるよう学習していく。絵を見て、加法になる場面、減法になる場面がどんな時なのかを考えながら、演算決定の能力を伸ばしていく。

現行の学習指導要領では、A 数と計算（2）加法及び減法の意味について理解し、それらを用い

ることができるようにする。D 数量関係（1）加法及び減法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすることができるようにすると位置付けられている。

新学習指導要領では、日常生活や社会の事象や数学の事象から問題を見出し主体的に取り組む数学的活動を充実させること、小・中学校教育を通じて統計的な内容を充実させることが、改訂のポイントとなっている。本単元では、①計算の意味を理解し、簡単な絵や図などに表すことなどについての技能を身に付けるようにする。②ものの数に着目し、具体物や図などを用いて数の数え方や計算の仕方を考える力を養う。③数量や図形に親しみ、算数で学んだことよさや楽しさを感じながら学ぶ態度を養うと位置付けられている。現行の指導要領と比べると、新学習指導要領では、簡単な絵や図などに表したり、具体物や図を使ったりして考えることをねらっている単元である。

（2） 児童観

算数が好きと感じている子は多い。具体物を操作したり、数えたりするときは興味をもって取り組んでいる。しかし、扱う数が20を越えてしまうと、具体物が数えている間になくなってしまったり、同じ物を何度も数えてしまったりと扱いづらさを感じている子もいる。

繰り上がりなし、繰り下がりなしの計算については、毎日宿題にしたり、100題テストに取り組んだりして、定着してきた。一方、言葉の理解が不十分であったり、計算の定着も不十分であったりする子も数名いる。

（3） 教材観

合わせたり、増えたりするときの数を求めるときに加法を適用すること、残りや違いの数を求めるときには減法を適用することを、言葉・簡単な絵や図・式と結び付けられるようにする。

問題作りをして、その問題を解決することを通して、演算決定の能力を伸ばす。

5 研究主題に迫るための手だて （※資料 「深い学び」を生み出す15の技法）

（1） 思考の活性化を図る課題設定の工夫

○問題作り（※A-2 既習知識・技能の活用）

問題作りを通して、加法・減法の意味理解を深めたい。式の表す意味や式の働きなどについての理解を十分に図るためには、式を読む活動を充実させる必要がある。**具体的な場面**・**式**・**絵や図**の三つを自由に行き来できて、深く理解したと考える。具体的な場面を簡単な絵や図で表す技能を身に付けさせたい。問題作りを行うことでこの三つを行き来し、加法・減法の意味理解を深めさせ、演算決定の能力を伸ばしたい。

○問題カード

加法・減法の場面が問題として作れる絵を示す。その絵の中から、たくさんの問題が作れる絵を示すことで、もっと作ってみたいという課題に向かう力を引き出したい。

（2） 思考を可視化し学びを深めるためのツールの活用

○問題作りワークシート（※B-9 学習モデルの活用）

言葉と絵や図で問題が作れるような問題作りワークシートを作成する。問題作りのモデルを示

し、分っていること（条件）、聞いていること（求答）を言葉で書き込み、図や絵と式を関連させられるようなワークシートにする。思考の流れが分かり、問題・式・答えが結び付くようなワークシートを活用することで、自分の考えを整理し表現する力を付けたいと考える。

○問題作りお助けシート （※B-8 理由や根拠を示した論理的な説明）

問題の場面と「聞いていること」が結び付けられるように、お助けシートを作成し掲示する。場面と問題の「聞いていること」の文が一致するよう、色分けをし可視化する。場面に合った「聞いていること」の言葉を使い問題を完成させることで、加法・減法の深い理解を促し演算決定の能力を伸ばしたい。

(3) 思考の深化を図る振り返りの充実

○視点の明確化（※C-11 学習成果と自己との関わり）

自分が作った問題について、どの場面の問題が作れたのかを考えるために、全員が挙手で振り返る。また、一人一人が「もっとやってみたいこと」、日常生活にもつなげていけるよう「たし算、引き算はどんな時に使えるのか」という言葉での振り返りを書く。

6 単元の指導計画と評価計画（3時間扱い）

時	○主な学習活動	◇指導上の留意点 ☆評価規準（評価方法）
1	○にんじゃの絵を見てどんな場面なのか話し合う。 ○絵を見て、加法と減法の問題作りをする。	◇にんじゃの絵を見て、どんな場面であるかを捉え、言葉で説明させる。 ◇加法・減法の問題作りを取り上げる。 ☆日常の事象や経験・既習学習を基に、問題を作ろうとしている。 関 （行動観察・記述分析） ☆加法と減法の意味や式の表し方を理解している。 知 （記述分析）
2 （本時①）	○絵を見て、加法になるのか減法になるのか考えて問題を作る。	◇どの絵から問題を作るのか、加法・減法のどちらになるのか考えながら、問題作りをさせる。 ☆日常の事象や経験・既習学習を基に、問題を作ろうとしている。 関 （行動観察・記述分析） ☆絵から加法や減法の場面を見出し、簡単な絵や図・言葉で表現することができる。 考 （発言分析・記述分析）
3 （本時②）	○問題を出し合い、解く。 ○自分の生活から、加法になる場面や減法になる場面を考える。	◇トリオで問題を出し合わせる。同じ問題にならないよう、トリオを決めておく。 ◇どうして加法・減法になるのかを考えさせる。 ☆問題を正確に解くことができる。 知 （記述分析） ☆友達の問題を解いて、どうして加法になるのか・減法になるのかを理解している。 考 （行動観察・記述分析）

7 本時①（2時間目／全3時間） 1年1組

(1) 目標

問題作りによる式の読みを通して、加法・減法の意味理解を深め、演算決定の能力を伸ばす。

(2) 展開

	主な学習活動 ・ 予想される児童の反応	◇指導上の留意点 ☆評価規準（評価方法）
導入	<p>1 たし算・ひき算の場面を振り返る。</p> <p>2 本時のめあてを確認する。</p>	<p>◇合わせたり、増えたりするときの場面・残りや違いを求めるときの場面を振り返る。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>手だて（1） 前時までの問題を振り返り、もっと他の問題は作れないか考え、問題作りへの意欲を高める。</p> </div>
<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>たしざんになるか、ひきざんになるかをかんがえて、もんだいづくりをしよう。</p> </div>		
展開	<p>3 問題作りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鳥の問題を作ろう。 ・かえるは、飛び出しているから引き算になりそうだ。 ・飛んでいる手裏剣と、ささっている手裏剣がある。「合わせると」だから、足し算になるかな。 <p>4 どの絵を使って問題を作ったか発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どんぐりでたし算の問題を作った。 ・かえるで引き算の問題を作った。 	<p>◇どの場面の問題を作るのか加法・減法のどちらになるのか考えながら、問題作りをさせる。</p> <p>◇前時に作った問題と同じ場面でも、違う場面でもいいこととする。</p> <p>◇考えることが難しい子へは、お助けシートを活用して、操作しながら考えられるようにする。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>手だて（2） 加法・減法どちらになるか考え、ワークシートを活用しながら、自分の作った問題を説明したり、友達の作った問題を考えたりする。</p> </div> <p>◇全体で、どんな場面になるのか考える。</p>

終末	<p>5 まとめをする。</p> <p>6 振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達が作った問題を知りたい。 ・もっと問題を作りたい。 	<p>一つの絵から、たし算になる問題も引き算になる問題も作れる。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>手だて（3）</p> <p>自分が何問作れたのか、どの絵について作ったのかを聞くことで、よく分かったことやもっとやってみたいことを考え、振り返らせる。</p> </div> <p>☆日常の事象や経験・既習学習を基に、問題を作ろうとしている。関（行動観察・記述分析）</p> <p>☆絵から加法や減法の場面を見出し、簡単な絵や図・言葉で表現することができる。</p> <p style="text-align: right;">考（発言分析・記述分析）</p>
----	--	--

8 本時①のルーブリック評価

	課題に向かう力	課題を解決する 思考力・表現力	学びを振り返る力
付けたい力 レベル	既習事項を生かしてすすんで問題を作る力	加法・減法になる場面を理解し、作った問題の言葉、簡単な絵や図、式とを結び付けることを理解する力	たし算・ひき算を使う場面を考える力
レベル3	既習事項を生かして、二つ以上の問題を最後まで作ることができる。	加法・減法の両方の場面の問題を作り、言葉・簡単な絵・図・式を正しく表すことができる。	たし算・ひき算を使う場面がたくさんあることに気づき、他にも問題を作りたいと考えている。
レベル2	既習事項を生かして、問題を最後まで作ることができる。	言葉・簡単な絵・図・式を正しく表し、問題を作ることができる。	絵カードの中の事象とたし算・ひき算を結び付けて考えることができる。
レベル1	問題を最後まで作ることができない。	問題場面を言葉・簡単な絵や図に表すことができない。	自分の作った問題の場面とたし算・ひき算を結び付けて考えることができる。

9 本時①の板書計画

どんなけいさんになるのかな

めあて

たしざんになるか、ひきざんになるか
かんがえて、もんだいづくりをしよう。

まとめ

一つのえから、たしざんになるもんだいも
ひきざんになるもんだいもつくれる。

ふりかえり

ともだちがつくったもんだいをみてみたい。

絵

すずめ かえる にんじゃ どんぐり

10 本時②（3時間目／全3時間） 1年2組

(1) 目標

作った問題を解き合うことを通して、加法・減法の意味理解を深め、演算決定の能力を伸ばす。

(2) 展開

	主な学習活動 ・ 予想される児童の反応	◇指導上の留意点 ☆評価規準（評価方法）
導入	<p>1 たし算・ひき算の場面を振り返る。</p> <p>2 本時のめあてを確認する。</p>	<p>◇合わせたり、増えたりするときの場面・残りや違いを求めるときの場面を振り返る。</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">手だて（1） 今までの学習を振り返り、友達の問題を解きたいという意欲を高める。</p>
ともだちがつくったもんだいをとこう。		
展開	<p>3 問題を解き合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ドングリが木に7個あります。5個落ちています。合わせて何個になりますか。 ・「合わせて」だからたし算になる。 ・式は$7+5=12$ 答えは12個です。 <p>4 どの絵を使って問題を作ったか発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どんぐりの絵で問題を作りました。木にあるどんぐりと落ちているどんぐりで、合わせて何個になりますか。だから、たし算の問題です。 ・どんぐりの絵で問題を作りました。木に付いているどんぐりと、落ちているどんぐりの違いはいくつですか。だから、ひき算の問題です。 	<p>◇トリオで問題を出し合い、解き合わせる。トリオで同じ問題ばかりにならないよう、事前にメンバーを決めておく。</p> <p>◇なぜ、たし算になるのか、ひき算になるのかも考えながら問題を解き合うようにさせる。</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">手だて（2） 問題・式・答えが結びつくようなワークシートを活用しながら、自分の作った問題を説明したり、友達の作った問題を考えたりする。</p> <p>◇全体で、どんな場面になるのか考える。</p>

終末	<p>5 まとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合わせたり、増えたりするときはたし算・残りや違いを知りたい時はひき算を使う。 <p>6 振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活の中でも、合わせたり、増えたりすることがあるからたし算が使える。 ・男の子と女の子の違いを知りたいときひき算が使える。 	<p>手だて（3）</p> <p>生活の中でたし算・ひき算になる場面を考える。生活の中にたし算、ひき算がたくさんあることに気付かせ、もっと考えたいという意欲をもたせる。</p>
		<p>☆問題を正確に解くことができる。</p> <p style="text-align: right;">[知]（記述分析）</p> <p>☆友達の問題を解いて、どうして加法になるのか・減法になるのかを理解している。</p> <p style="text-align: right;">[考]（行動観察・記述分析）</p>

11 本時②のルーブリック評価

	課題に向かう力	課題を解決する 思考力・表現力	学びを振り返る力
付きたい力 レベル	既習事項を生かしてすすんで問題を解く力	作った問題が、絵や図、式と結び付くことを理解する力	たし算・ひき算を使う場面を考える力
レベル3	友達の問題を正しく解くことができる。なぜ、たし算になるのか、ひき算になるのか言うことができる。	友達の問題を言葉と簡単な絵・図・式と結び付け正しく解くことができる。間違いがある時は、根拠を明らかにして説明できる。	日常の事象とたし算・ひき算を結び付けて考えることができる。
レベル2	友達の問題を読んで、式と答えを正しく書くことができる。	友達の問題を言葉と簡単な絵・図・式と結び付け、解くことができる。	絵カードの中の事象とたし算・ひき算を結び付けて考えることができる。
レベル1	友達の問題を解こうとしない。	友達の問題を解くことができない。	自分のつくった問題の場面とたし算・ひき算を結び付けて考えることができる。

12 板書計画

どんなけいさんになるのかな

めあて

ともだちがつくったもんだいをとこう。

--	--	--	--	--

--	--	--	--	--

子供のワークシート

絵

--

まとめ

あわせたり、ふえたりするときはたしざん

のこりやちがいをしりたいときはひきざんをつかう

ふりかえり

おとこの子とおんなの子のちがいをしりたいときは

ひきざんがつかえる。

第2学年生活科学学習指導案

日 時：平成29年11月22日（水）5校時
場 所：台東区立上野小学校 第2学年教室
対 象：第2学年1組33名 2組32名
指導者：武井 二郎 中村 久美子

1 単元名

作って ためして ～おもちゃ大会をひらこう～

2 単元の目標

○身近にある物を使って動くおもちゃを作り、みんなで遊びを楽しもうとする。

＜関心・意欲・態度＞

◎身近な物で動くおもちゃの作り方を工夫したり、作った物で楽しく遊ぶ方法を考えたりする。

＜思考・表現＞

○おもちゃが動く仕組みに気付き、その面白さや不思議さに気付くとともに、自分たちで協力したり工夫したりすると、遊びや生活を楽しめることに気付く。

＜気付き＞

3 単元の評価規準

生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・表現	身近な環境や自分自身についての気付き
<ul style="list-style-type: none">・身近にある物を使って動くおもちゃをすすんで作ろうとしている。・作ったおもちゃで、みんなと遊びを楽しもうとしている。	<ul style="list-style-type: none">・身近な物で動くおもちゃの作り方を考えたり、工夫したりしている。・作ったおもちゃで楽しく遊ぶ方法を考えたり、工夫したりしている。	<ul style="list-style-type: none">・おもちゃが動く仕組みやその面白さ・不思議さに気付いている。・自分たちで協力したり工夫したりすると、遊びや生活を楽しめることに気付いている。

4 指導観

(1) 単元観

本単元は、学習指導要領の第1学年及び第2学年の内容（6）「身近な自然を利用したり、身近にある物を使ったりなどして、遊びや遊びに使う物を工夫してつくり、その面白さや自然の不思議さに気付き、みんなで遊びを楽しむことができるようにする。」を受けて設定したものである。

さらに、新学習指導要領では内容（6）に「身近な自然を利用したり、身近にある物を使ったりするなどして遊ぶ活動を通して、遊びや遊びに使う物を工夫してつくり、その面白さや自然の不思議さに気付くとともに、みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとする。」とある。

面白さや不思議さに気付く（知識・技能）、遊びや遊びに使う物を工夫して作る（思考力・判断力・表現力等）、遊びを創り出そうとする（学びに向かう力・人間性等）という資質・能力の育成を目指して指導にあたる。

(2) 児童観


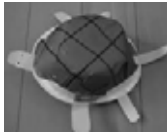

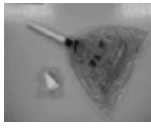


これまでの生活科では、「1年生との学校探検」「ミニトマトやサツマイモの栽培」「1年生と地域の公園での交流」「町探検」「生き物の観察」などを学習してきた。どの学習でも、児童の思いや願いから単元を展開するよう心がけたため、生活科の学習に対する意欲は高い。

10月に実施した学習に関するアンケート調査では「授業のめあてを理解し、すすんで学習に取り組んでいる」と回答した児童は80%であり、意欲的に学習に取り組んでいることが分かる。一方で「自分の考えをノートやワークシートに書いている」と回答した児童は78%だったのに対し、「自分の考えをグループやクラス全体に分かりやすく話している」と回答した児童は65%だった。この結果から、自分の考えを話し言葉によって表現する力には課題があることが分かる。本単元では、めあてに対する自分の考えを一人一人がもち、小グループで伝え合うことができるように指導したい。

本校の児童はゲーム機器などの既製品で遊ぶことが多く、身近な物を使っておもちゃを作ったことのある経験は少ない。ただし、夏休みの自由工作ではビー玉や割りばしを使っておもちゃを作ってきた児童がおり、作品展でも他の児童が喜んで遊んでいた。普段、おもちゃを作って遊ぶ経験は少ないものの、手作りのおもちゃには興味・関心があると考えられる。身近な物を工夫することで遊びや生活を楽しめることに気付いてほしい。

(3) 教材観

本単元における学習対象は「身近にある物」であり、学習活動は「遊びに使う物を工夫して作ること」である。「身近にある物」として、紙・ひも・ポリ袋・空き缶・空き箱・ストロー・割りばし・ペットボトル・牛乳パック・紙コップ・トレイ・輪ゴム・磁石等を数多く用意する。また、学習活動「遊びに使う物を工夫して作ること」を充実した活動にするためにも、以下の2点を基準におもちゃを選定した。①材料や作り方、遊び方を工夫することができるおもちゃ。②科学的なものの見方・考え方の基礎を養い、第3学年以降の理科の学習につなげられるような「動力」によって動くおもちゃ。それらを踏まえた上で、本単元で作成するおもちゃを以下の六つとした。六つのおもちゃに関係する動力は「ゴム」や「風」「空気」「磁石」「摩擦」等である。動くおもちゃを作る過程を通して、動力やおもちゃの仕組み、身近な材料の活用等の楽しさに気づき、みんなで楽しく遊ぶおもちゃ大会へと展開したい。

おもちゃの名称	パッチンがえる	トコトコかめ	ばたばた車	ボンボンロケット	ころころりす	するするおさる
完成のイメージ						
主な動力	ゴム	ゴム・おもり	風	空気	磁石	摩擦
主な作り方の工夫に関わるキーワード	・ゴムの数 ・切り込みの位置	・おもりの大きさ ・ゴムの巻き方	・帆の大きさ ・タイヤの位置	・袋の大きさ ・筒の留め方	・輪の大きさ ・磁石の位置	・ストローの向き ・箱の大きさ
主な遊び方の工夫に関わるキーワード	・高く跳ばす ・表か裏か	・遠くへ進む ・目標地点に進む	・速く走る ・コースに沿って走る	・遠くに飛ばす ・目標地点に飛ばす	・速く進む ・押し合う	・速く上げる ・往復させる

5 研究主題に迫るための手だて (※資料 「深い学び」を生み出す15の技法)

(1) 思考の活性化を図る課題設定の工夫

○児童の思いや願いを生かした課題設定

児童が本気になって課題に向かい思考を活性化するためには学びに向かう主体性が不可欠である。そこで、単元の始めに、動力となるゴムや磁石、風などの働きや面白さに気付くように素材遊びをする。児童の「作ってみたい」「遊びたい」という思いや願いを基に、学習課題の対象となる「身近な物」や「動くおもちゃ」を設定する。

○目的意識・相手意識、必要感のある課題設定

〈単元の課題設定〉

本単元では、学習のゴールを「自分たちで作ったおもちゃで1年生と遊ぶ(おもちゃ大会を開く)」こととした。目的意識・相手意識を明確にした課題設定が、児童の思考を活性化することにつながると考える。

〈本時の課題設定〉

本時では「作ったおもちゃをよりよくするためにはどうすればよいだろう」「1年生と一緒に楽しむためにはどんな遊び方にすればよいだろう」という思いを基に学習課題を設定する。「おもちゃ大会をひらく」という学習のゴールに向けて必要感のある課題であると考え。

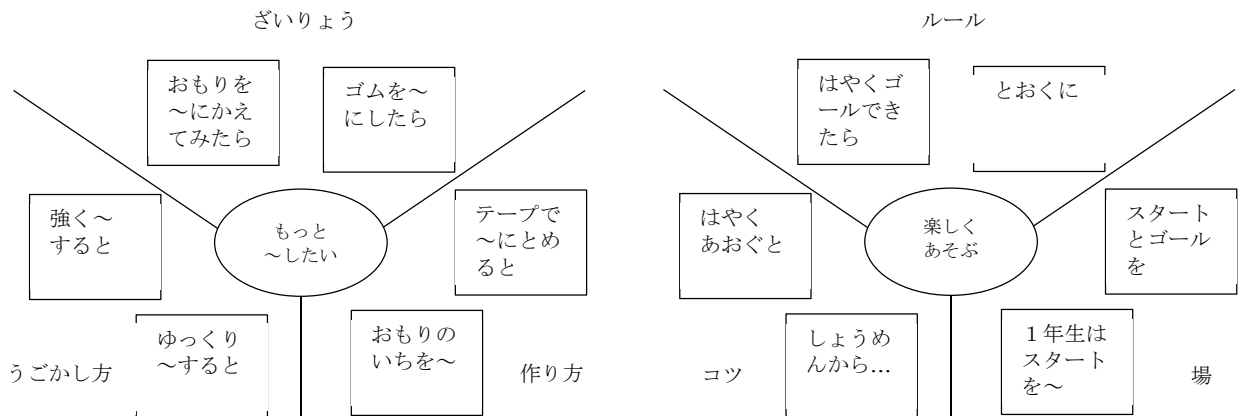
(2) 思考を可視化し学びを深めるためのツールの活用 (※A-4 友達との練り合いや練り上げ)

(※B-7 異なる多様な考えの比較)

(※B-15 視点・観点・論点の明確化)

○付箋とYチャート

児童の思い・願いに対し、グループで多様な考えを出し合うために付箋を活用する。また、付箋を貼る台紙としてYチャートを使用する。それにより、考える視点を明確にし児童自身が思考を分類・整理することができるようにする。



(3) 思考の深化を図る振り返りの充実 (※B-9 学習モデルの活用)

(※C-11 学習成果と自己との関わり)

○学習モデルによる視点の明確化

低学年の児童が1単位時間での学びを自分の言葉で表現するために、振り返りの視点としてキーワードを提示する。振り返りの視点となる学習モデルを使うことで、新たな気づきやさらなる理解について表現できるようにする。

○振り返る材料の蓄積

振り返りを充実させるためには、学びの軌跡・足跡をたどることが重要である。そこで、ワークシートや写真、動画等を蓄積しておき、児童がこれまでの学びを振り返ることができるようにする。学びの過程を振り返ることで、その成果を実感できるようにする。

6 単元の指導計画と評価計画（12時間扱い）

次	時	○主な学習活動	◇指導上の留意点 ☆評価規準(評価方法)
一	1 ・ 2	○身近にある物の特徴を生かして、いろいろな遊び方を試す。(輪ゴム・磁石・ビニール袋、粘土、うちわ等) 作って ためして ～おもちゃ大会をひらこう～	◇「伸びる」「くっつく」「転がる」など、おもちゃの動きにつながる言葉を引き出す。 ◇活動の様子を振り返ることができるように写真や動画で記録しておく。 ☆物が動く面白さや不思議さに気付いている。 <u>気</u> (ワークシート)
	3	○友達の遊び方を振り返ったり、教師が作成したおもちゃで遊んだりする。 ○身近にある物を使って作りたい動くおもちゃを決める。	◇前時に動きの仕組みに気付き、活動している児童の様子を紹介する。 ☆身近にある物を使って動くおもちゃをすすんで作ろうとしている。 <u>関</u> (ワークシート)
二	4 ・ 5	○おもちゃの仕組みを考えながら動くおもちゃを作る。 ・パッチンがえる ・トコトコかめ ・パタパタ車 ・ポンポンロケット ・ころころりす ・するするおさる	◇おもちゃができた児童が、遊べるように場を設定しておく。 ◇いろいろな工夫ができるように様々な材料を用意する。 ☆身近な物で動くおもちゃを作るために、考えたり工夫したりしている。 <u>思</u> (ワークシート)
	6 (本時①) ・ 7	○おもちゃをよりよくするために、グループでアドバイスをし合って、改良する。	◇工夫した点やもっとこうしたいという点も友達に伝えるように声をかける。 ◇友達からもらったアドバイスを活用できるように掲示しておく。 ☆よりよい動くおもちゃを作るために、考えたり工夫したりしている。 <u>思</u> (観察・ワークシート)
	8 (本時②)	○作ったおもちゃを使って、楽しい遊び方をグループで考える。	◇1年生と一緒に楽しむには、どうしたらよいかを意識させる。 ☆作ったおもちゃで楽しく遊ぶ方法を考えている。 <u>思</u> (観察・ワークシート)
	9 ・ 10	○おもちゃ大会の準備をする。	◇グループごとに、遊びのスペースを確保する。 ☆作ったおもちゃで、みんなと遊びを楽しもうとしている。 <u>関</u> (発言・行動)
三	11 ・ 12	○おもちゃ大会を開く。 ○学習を振り返る。	◇1年生と一緒に楽しく遊ぶために、ルールや遊び方を確認する。 ☆協力したり工夫したりすると、遊びや生活を楽しめることに気付いている。 <u>気</u> (ワークシート)
国語科		○自分が選んだおもちゃの作り方を書いて、友達に紹介する。	

7 本時①（6時間目／全12時間） 2年1組

(1) 目標

よりよい動きにするために、おもちゃの作り方や動かし方の工夫について考える。

(2) 展開

	主な学習活動 ・ 予想される児童の反応	◇指導上の留意点 ☆評価規準（評価方法）
導入	1 前時までの学習を振り返る。 2 本時のめあてを知る。	手だて（1） 「1年生と一緒に遊ぶ」という目的意識・ 相手意識を想起させることで学習への意欲を 高める。
よりよいうごきにするために、 おもちゃをパワーアップさせよう。		
展開	3 前時で作ったおもちゃをどのように改良 したいか考える。 ・もっと高く飛ばしたい。 ・もっと速く転がしたい。 4 グループでアドバイスし合う。 ・もっとゴムをたくさん巻くといいよ。 ・もっと軽い土台を使うといいかも。 5 アドバイスを基に、おもちゃを作り直し たり、改良したりする。	◇学習モデルを示すことで、「もっと～したい」 という児童の思いや願いを引き出す。 手だて（2） 付箋を活用することで、観点ごとにアドバ イスをすることができるようにする。また、 付箋に残しておくことで、おもちゃを改良す る際に活用しやすくする。 ◇様々な材料を用意しておく。 ◇「作る」「試す」を繰り返せるようにおもちゃ の動きを試す場を確保する。
終末	6 前回作ったおもちゃとの違いや工夫を発 表する。 7 学びを振り返る。	手だて（3） キーワードを示すことで、新たな気付きや 理解について表現できるようにする。 ・「友達の～というアドバイスを聞いて…」 「～を…にかえて」「～に作ってみて」 「～なうごかし方をして…」 ・「～気付いた」「～できた」「～分かった」 ☆よりよく動くおもちゃを作るために、作り方 や動かし方を考えたり工夫したりしている。 ㊦（付箋・ワークシート）

8 本時①のルーブリック評価

	課題に向かう力	課題を解決する 思考力・表現力	学びを振り返る力
付きたい力 レベル	よりよい動きにするため におもちゃを改良しよう とする力	よりよい動きにするため におもちゃの作り方や動 かし方の工夫を考え表現 する力	おもちゃ作りを通して得た 新たな気付きや理解につい て振り返る力
レベル3	前時に作ったおもちゃか ら改善点を見付け、どの ように改良したいか書く ことができる。	おもちゃを改良する際の 工夫について、三つ以上 付箋に書くことができる。	活動と気付きや理解の因果 関係を結び付けて振り返り を書くことができる。
レベル2	前時に作ったおもちゃを どのように改良したいか 書くことができる。	おもちゃを改良する際の 工夫について、二つ付箋に 書くことができる。	活動したことや気付いたこ と等を振り返りに書くこと ができる。
レベル1	前時に作ったおもちゃを どのように改良したいか 書くことができない。	おもちゃを改良する際の 工夫について、一つ付箋に 書くことができる。または 書くことができない。	活動したことや気付いたこ と等を振り返りに書くこと ができない。

9 本時①の板書計画

11月22日（水）作って ためして ～おもちゃ大会をひらこう～

めあて よりよいうごきにするために、
おもちゃをパワーアップさせよう。
もったかく
もっとおくに
もっとまっすぐ

ふりかえり 「友達の～というアドバイスを聞いて…」 「～から…にかえて」 「～に作ってみて」
「～な動かし方をして…」 「～に気づいた」 「～できた」 「分かった」

《学しゅうのながれ》

- 1 友だちにおもちゃをしょうかい
思いをつたえる
- 2 アドバイスをもらう
- 3 作ってみる
- 4 ためしてみる

ざいりょう

動かし方 作り方

10 本時②（8時間目／全12時間） 2年2組

(1) 目標

1年生と一緒に楽しむために、作ったおもちゃの遊び方の工夫について考える。

(2) 展開

	主な学習活動 ・ 予想される児童の反応	◇指導上の留意点 ☆評価規準（評価方法）
導入	1 前時までの学習を振り返る。 2 本時のめあてを知る。	手だて（1） 相手意識・目的意識を確認することで意欲を高める。前時の振り返りを紹介しながら、本時の学習課題を明確につかませる。
	1年生といっしょに楽しめる おもちゃのあそび方を考えよう。	
展開	3 おもちゃの遊び方を考えて、視点ごとに色分けされた付箋に書く。 ・遠くに飛ばした人が勝ちにしよう。 ・スタートとゴールを作ろう。	◇三つの視点を明確にする。 ・ルール ・場 ・コツ ◇1枚の付箋には、一つの事柄を書くよう声をかける。
	4 付箋を基にグループで話し合い、遊び方を決める。 ・～さんの意見がいいと思うな。 ・1年生も楽しめるようにスタートの位置を変えよう。	手だて（2） 付箋を活用することで、多様な意見を比較・分類できるようにする。また、付箋に残しておくことで、次のおもちゃ大会準備の際に活用しやすくする。
	5 話し合ったことを基に、遊びを試してみる。	◇おもちゃの試し遊びをする場を確保する。
終末	6 作ったおもちゃを使った遊び方を発表する。	◇どんな工夫をしたのかを伝えることができるようにする。
	7 学びを振り返る。	手だて（3） キーワードを示すことで、新たな気付きや理解について表現できるようにする。 ・「友達の～という意見を聞いて…」 「おもちゃの～といううごきを生かして…」 ・「～気付いた」「～できた」「～分かった」 ☆作ったおもちゃで、楽しく遊ぶ方法を考えている。 思 （付箋・ワークシート）

1 1 本時②のルーブリック評価

	課題に向かう力	課題を解決する 思考力・表現力	学びを振り返る力
付きたい力 レベル	1年生と一緒に楽しむためにおもちゃの遊び方を工夫しようとする力	おもちゃのよりよい遊び方について考え、遊び方を選ぶ力	遊び方を考えることを通して得た新たな気付きや理解について振り返る力
レベル3	遊び方の工夫について、三つの観点に沿って付箋に書くことができる。	自分と友達の見解を比べながら、おもちゃのよりよい遊び方について理由を付けて選ぶことができる。	活動と気付きや理解の因果関係を結び付けて振り返りを書くことができる。
レベル2	遊び方の工夫について、二つの観点に沿って付箋に書くことができる。	おもちゃのよりよい遊び方について選ぶことができる。	活動したことや気付いたこと等を振り返りに書くことができる。
レベル1	遊び方の工夫について、一つの観点に沿って付箋に書くことができない。 または、書けない。	おもちゃのよりよい遊び方について選ぶことができない。	活動したことや気付いたこと等を振り返りに書くことができない。

1 2 本時②の板書計画

11月22日(水) 作って ためして ～おもちゃ大会をひらこう～

めあて 1年生といっしょに楽しめるおもちゃのあそびかたを考えよう。
楽しく
ルール、場、コツ

《学しゅうのながれ》

- 1 おもちゃのあそび方を考えてふせんに書く。
- 2 グループで話し合い、あそび方をきめる。
- 3 ためしてみる

ふりかえり 「友達の～という意見を聞いて…」 「おもちゃの～なうごきをいかして…」 「～に気づいた」「～できた」「分かった」

第3学年国語科学習指導案

日時：平成29年11月22日（水）5校時
場所：台東区立上野小学校 第3学年教室
対象：第3学年1組32名 2組31名
指導者：伊藤 麻理 平子 菜摘

1 単元名

物語の気に入ったところを台詞にしよう 『モチモチの木』

2 単元の目標

- ◎会話や行動に表れた登場人物の気持ちや場面が移り変わる様子を、本文の叙述を基に想像を広げて読む。 <読む能力>
- 読み取った登場人物の気持ちや場面の移り変わりを根拠に、学芸会の台本に取り入れたい台詞を考えて話し合う。 <話す・聞く能力>

3 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能
・登場人物の様子や気持ちの変化を想像しながら自分の考えをまとめようとしている。	・台詞にふさわしい言葉はどれか考えながら話したり、友達の考えを聞いたりしている。	・登場人物の気持ちの変化や情景、表現の工夫を、叙述を基に想像しながら読んでいる。 ・自分の選んだ場面のおもしろさを説明するために、場面の移り変わりの印象的ところや主人公の性格や気持ちの変化を捉えて読んでいる。	・指示語や接続語には、文相互の関係を端的に示す手掛かりになることを理解し、文章を読んでいる。

4 指導観

(1) 単元観

この単元は、国語科第3学年及び第4学年の内容C(1)のウ「場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むこと。」C(1)のオ「文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付くこと。」の指導に位置付けられている。

また、新学習指導要領において、第3学年・第4学年の内容〔思考力、判断力、表現力等〕C(1)のイ「登場人物の行動や気持ちなどについて、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像するこ

と。」C(1)のカ「文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。」と示されている。

語り手の語りを中心に物語が展開されているが、その語りの文章の中にはもちろん、登場人物の会話や行動の中にも、登場人物の性格や気持ちが巧みに描かれている。五つの場面ごとに、叙述を基に登場人物の気持ちを読み取っていき、最初と最後の場面を比較しながら、登場人物の人柄や変容について考え、深く捉えていく。そして、五つの場面の中から児童が自分の興味をもった場面を選択し、登場人物の気持ちの変化や情景を基に台詞を考え、グループで話し合いながらまとめていき、12月に校内で行われる学芸会に向けての台本に取り入れたい台詞を考える。その活動を通して、友達との感じ方についての類似点や相違点に気付くことができ、表現の工夫や物語のよさを伝える楽しさに深まりが感じられると考え、この単元を設定した。

(2) 児童観

日々の授業で、教材で大事な言葉を見付け、そこに焦点化して話し合うことを楽しんでいる。少人数グループでの話し合い活動では、上手に自分と友達のを考えを取り入れながらまとめられる児童がいる一方で、自分の考えを上手く伝えられなかったり、自分の考えを強く主張してしまったりする児童や、考えを伝えるだけでまとめることができない児童がいる。本単元を通して、児童が場面ごとの登場人物の気持ちや情景の移り変わりに気付き、楽しく読み取りながら、好きな場面を児童自らが選択し、その場面の叙述を基に台詞を考え、グループで意欲的に話し合っよりよい台詞に練り上げていけるようにしたい。

(3) 教材観

本物語は、臆病な豆太が、勇気のある子供にしか見ることのできない「モチモチの木」の灯を見ることのできた物語である。本教材は、場面ごとの出来事が明確で、場面の移り変わりも把握しやすいため、それぞれの場面における人物の様子や気持ちも読み深めることができる。また、それらを基に、場面を比較しながら登場人物の気持ちや情景の移り変わりの面白さに気付くことができる教材である。

単元前半では、音読した後、語り手の語りや登場人物の会話や行動の中から、豆太の気持ちの変化や情景を感じられる言葉にサイドラインを引き、そこから考えられる場面ごとの豆太の気持ちや様子について、トリオで話し合う。最後に、学級全体で場面ごとの豆太の気持ちの移り変わりを考えていく。

単元後半では、12月に校内で行われる学芸会に向けて、児童自ら興味をもった場面を選択し、2クラス混合のトリオを編成し、ここから学年での活動とする。叙述を基にトリオで話し合った台詞をトリオ別の色短冊に書いて、その短冊を場面ごとに拡大した教科書本文に貼る。他のトリオがそれに対する考えを付箋に書いて貼ったことを基に、台本に取り入れたい台詞を場面ごとのチームで話し合う。ここでは、主に意見が集中したところについて話し合っいき、トリオ同士の交流を通して、自分とは異なる表現の仕方を見付け、その面白さに気付き、台詞をよりよいものに練り上げていく。そして、場面ごとに考えた台詞を話し合い、話全体としてまとまりのある、上野小学校オリジナルのモチモチの木を完成させる。

5 研究主題に迫るための手だて (※資料 「深い学び」を生み出す15の技法)

深い学びの実現のために、児童が見通しをもって、自分の考えをもち、友達と意見を交流して学習を進め、授業の終わりには学習を振り返って次の授業につなげることが大切である。そのために、以下の3点について手だてを考えた。

(1) 思考の活性化を図る課題設定の工夫

○学習計画の活用

本単元では、最終的に学芸会の台本に取り入れたい台詞を考え、話し合っってよりよいものに練り上げていく活動を設定している。そのため、学芸会に取り入れたい台詞を考えるために、登場人物の気持ちを読み取ることや、それが移り変わっていく面白さを感じることを求められる。登場人物の気持ち、場面ごとの気持ちの移り変わりを、叙述を基に考えるという目的意識・必要感のある課題を設定し、学習計画を立てることで、最終活動を意識して学び続けることができる考えた。さらに、学習計画表を用いて、その日の学びを振り返り、全体の学びにつながる内容を次時の導入時に紹介することで、トリオでの話し合い、学級全体の学びへの意欲を高めたい。

(2) 思考を可視化し学びを深めるためのツールの活用

○叙述を基に考えた意見を明確化する付箋の活用 (※B-8 理由や根拠を示した論理的な説明)

音読をする際に登場人物の性格や気持ちを感じられるところを見付けることを意識させ、読み終えた後、自分が大事だと思ったところに鉛筆でサイドラインを引く。その後、学級全体でどの言葉を選んだか話し合い、それを参考に豆太の気持ちを個人で考え、それを整理、可視化するためにトリオでそれぞれ違った色の付箋に書く。そして、その付箋を基にトリオで意見を交流してホワイトボードに考えをまとめて発表し、学級で深めていく。

○取り入れたい台詞を練り上げていく「短冊」の活用 (※A-4 友達との練り合いや練り上げ)

単元後半での学芸会の台本に取り入れたい台詞を考える際、教科書に引いているサイドラインを参考に叙述を基に付箋に書く。さらに、実際に体を動かしたり、必要に応じてペープサートを使用したりして台詞らしい言葉にトリオで仕上げ、トリオごとに色別された短冊に書いていく。どの叙述からその台詞を考えたかが明確になるよう、教科書本文を拡大した物に短冊を貼り出し、発表していく。聞き手側は、それに対する考えを付箋に書いて短冊に貼っていく。そして、意見が集中している箇所を中心に、場面ごとのグループで台詞を話し合っって決める活動を行う。この活動を通して、表現の異なる友達と話し合うことで自分とは異なる考えを聞いたり、意見を伝えたりしながら、よりよい表現の仕方を考え、深い学びを促す。

(3) 思考の深化を図る振り返りの充実

○視点の明確化を図る振り返り (※C-15 視点・観点・論点を明確にした思考や表現)

毎時間、学習計画表の振り返り欄に、自分ができたこと、分かったこと、感じたこと、疑問に思ったこと、次時への課題、友達のよいところ、と視点を確認して書かせ、自らの学びを振り返り、次時につなげられるようにする。さらに、前時で視点を明確に表現している児童の振り返りを次時の導入で学級または、学年全体に紹介し、本時の意欲を高めたいけるようにする。

6 単元の指導計画と評価計画（14時間扱い）

	○主な学習活動	◇指導上の留意点 ☆評価規準（評価方法）
つかむ (1時間)	<p>○範読を聞いて感想を書き、交流する。</p> <p>○学習内容を確認し、見通しをもつ。</p>	<p>◇学習計画を提示し、学習の流れを確認する。</p> <p>☆登場人物の様子や気持ちの変化を想像しながら自分の考えをまとめようとしている。</p> <p style="text-align: right;">関（発言・ノート）</p>
読み取る (5時間)	<p>○物語を読んで、登場人物の気持ちを考える。</p> <p>○一人で音読し、サイドラインを引いた後、学級全体で大事な言葉を確認する。</p> <p>○話し合った言葉も参考に、自分の考えを付箋に書いてノートに貼る。</p> <p>○書いた付箋を基にトリオで話し合い、ホワイトボードに考えをまとめ、学級全体で意見を交流する。</p> <p>○場面ごとの登場人物の気持ちや情景の変化についてまとめる。</p>	<p>◇音読を繰り返して内容を理解した上で、サイドラインを引かせる。</p> <p>☆指示語や接続語には、文相互の関係を端的に示す手掛かりになることを理解し、文章を読んでいる。</p> <p style="text-align: right;">知（サイドライン・付箋・ノート）</p> <p>◇トリオでの話し合いでは、自分の意見を述べた上で、相手の意見を聞き、それぞれのよさを生かしてまとめさせる。</p> <p>☆登場人物の気持ちの変化や情景、表現の工夫を、叙述を根拠に想像しながら読んでいる。</p> <p style="text-align: right;">読（音読・付箋・ノート）</p>
生かす (8時間) 10 本時 ／ 14	<p>○学芸会に取り入れたい台詞を登場人物の気持ちや情景を感じ取りながら、叙述を基に考える。</p> <p>○個人で出し合った意見を基に、トリオで台詞を色別短冊にまとめる。</p> <p>○場面ごとにトリオで話し合ったことを発表し合い、感じたことや思ったことを付箋に書き、短冊に貼る。それを基に、台詞を見直してホワイトボードに書く。（本時）</p> <p>○付箋が多く貼られた箇所を中心に場面ごとに、台本に取り入れたい台詞をよりよいものに練り上げていく。</p>	<p>◇読み取りで確認した登場人物の気持ちや情景の変化を、ノートを見直して思い出させる。</p> <p>◇通常の読み方と比べさせて、登場人物らしい言い回しや昔の言葉づかいを使うとよいことに気付かせる。</p> <p>◇自分の考えにはない、表現のよさを見付けるとよいことを伝える。</p> <p>☆自分の選んだ場面の面白さを説明するために、場面の移り変わりの印象的ところや主人公の性格や気持ちの変化をとらえて読んでいる。</p> <p style="text-align: right;">読（短冊・付箋・ホワイトボード・ノート）</p> <p>☆台詞にふさわしい言葉はどれか考えながら話したり、友達の考えを聞いたりしている。</p> <p style="text-align: right;">聞（発言・ノート・振り返り）</p>

7 本時（10時間目／全14時間）

(1) 目標

叙述に基づいた他のトリオの発表を基に、台詞を見直す。

(2) 展開

	○主な学習活動 ・予想される児童の反応	◇指導上の留意点 ☆評価規準（評価方法）
導入	<p>1 前時で視点を明確に表現していた児童の振り返りを学年全体に紹介する。</p> <p>・私も、みんな工夫したところが伝わるようじさまになりきって発表したい。</p>	<p>手だて（1）</p> <p>前時の振り返りから、全体の参考になる意見を紹介し、その視点を黒板に提示することで、本時の活動に生かせるようにする。</p>
	<p>台本に入りたい台詞をたがいに聞き合い、自分たちの台詞を見直そう。</p> <p>2 学習の仕方を確認する。</p> <p>3 自分の場面を一人読みする。</p> <p>・じさまは、自分のことよりも豆太のことを大切に守ってくれていることを話し合った。</p> <p>4 前時で教科書本文の拡大に出し合ったトリオの意見を確認する。</p>	<p>◇プロセスカードを用意し、展開が確認できるようにする。</p> <p>◇読み取りで確認した登場人物の性格や気持ちを教科書に引いたサイドラインを見て思い出させる。</p> <p>◇通常の読み方と比べさせて、登場人物らしい言い回しや昔の言葉づかいを使い、理由や根拠を基に話すことを促す。</p>
展開	<p>5 前時の色別短冊を基に、場面ごとにトリオで考えた台詞を発表したり、聞いたりする。</p> <p>・私は、モチモチの木という題名だからと、木にも台詞をつけることは思いつかなかった。</p> <p>・じさまが、おなかが痛くなったときに、嘘をついているところでは、豆太は困って悩んでいる様子が分かる台詞だった。</p> <p>6 他のトリオの発表を踏まえて、自分たちの考えを見直し、ホワイトボードに書く。</p> <p>・木の台詞を褒めてもらったけど、もう少し豆太に話しかけると様子が分かるから、台詞を詳しくしよう。</p>	<p>◇自分だったらどんな台詞にするか考えて他のトリオの発表を聞き、それに対し、自分にはない良さや改善点を付箋に書くよう促す。</p> <p>手だて（2）</p> <p>「～という言葉から、…がよいと思う。」という文章を提示し、叙述を根拠に、よりよい台詞にする意見を考えることを意識させる。</p> <p>☆教科書の叙述を根拠に、自分の考えを付箋に書いている。 読（付箋）</p> <p>◇叙述に基づいた他のトリオのよい意見について、話合いの参考にさせる。</p> <p>◇声に出したり、動いたりして、その表現でいいのか確かめさせる。</p> <p>☆台詞にふさわしい言葉はどれか考えながら話したり、友達の考えを聞いたりしている。 聞（発言・振り返り）</p>

終末	<p>7 学習の振り返りを書く。</p> <p>・1班の「年よりじさまの医者様と書いてあるので、お年寄りの言葉遣いに台詞を直した方がいいと思う。」と意見があったので、自分たちの台詞に取り入れた。</p>	<p>◇視点に沿った振り返りができている児童に発表させ、どのようなことが書けているとよいのか参考にさせる。</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">手だて（3） 振り返る視点を黒板に提示し、自分たちの考えがよりよくなったのは、どの付箋の言葉を根拠に考えたからなのかを振り返らせる。</p>
----	---	---

8 本時のルーブリック評価

	課題に向かう力	課題を解決する 思考力・表現力	学びを振り返る力
付きたい力 レベル	他のトリオのよいところを見付けようとする力	叙述を根拠に他のトリオのより良い意見を取り入れる力	話し合ったことを自分の考えに生かす力
レベル3	他のトリオの意見を大事などころを落とさず聞き、自分の考えと比較することができる。	台本に取り入れたい台詞について、叙述に基づいた他のトリオの意見を聞き、自分の考えに取り入れることができる。	他のトリオの参考になった意見を自分の考えに取り入れたことや、次時で話し合いたいことを書くことができる。
レベル2	他のトリオの意見を聞き、よいところを見付けることができる。	台本に取り入れたい台詞について、叙述に基づいた他のトリオの意見を聞き、よいところに気付くことができる。	他のトリオのよい意見を書くことができる。
レベル1	他のトリオの意見を聞くことができる。	・台本に取り入れたい台詞について、叙述に基づいた他のトリオの意見を聞き、同意することができる。	学習の感想を書くことができる。

9 板書計画

ふりかえり

話し合いでの自分は

どの言葉でどう直した

・くという言葉から、…がいいと思う。

教科書本文

短冊

三

めあて

じさまらしい話し方に

この言葉だからこうした

十一月二十二日 水曜日

モチモチの木

台本に入りたい台詞をたがいに聞き合い、自分たちの台詞を見直そう。

第4学年社会科学学習指導案

日 時：平成29年11月22日（水）5校時

場 所：台東区立上野小学校 第4学年教室

対 象：第4学年1組24名 2組23名

指導者：柴田 直樹 栗山 智子

1 単元名 伝とう文化を生かす～上野のまちのよさを伝えよう～

2 単元の目標

- ◎伝統や文化を地域の資源として保護・活用してまちを活性化している浅草や上野の人々の工夫や努力、協力について調べ、人々の思いや願いを考えるとともに、地域の一員として自分のできることを考える。
- 地域の人々の生活の変化や地域の人々が受け継いできた文化財や年中行事に関心をもち、意欲的に調べる。 <感心・意欲・態度>
- 地域の人々の生活の変化や地域の人々が受け継いできた文化財や年中行事、地域の発展に尽くした先人の働きについて調べ、表現する。 <思考・判断・表現>
- 地域の方から聞き取り調査し、地域の人々の生活の変化や地域の人々が受け継いできた文化財や年中行事、地域の発展に尽くした先人の働きについて必要な情報を集め、読み取る。 <技能>
- 地域の人々の生活の変化や向上が、人々の願い努力や先人の働き苦心によるものであることを理解する。 <知識・理解>

3 単元の評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	観察・資料活用の 技能	社会的事象についての 知識・理解
・地域の人々の生活の変化や地域の人々が受け継いできた文化財や年中行事に関心をもち、意欲的に調べている。	・地域の人々の生活の変化や地域の人々が受け継いできた文化財や年中行事、地域の発展に尽くした先人の働きについて、学習計画を考え表現している。	・地域の方から聞き取り調査し、地域の人々の生活の変化や地域の人々が受け継いできた文化財や年中行事、地域の発展に尽くした先人の働きについて必要な情報を集め、読み取っている。 ・調べたことを新聞にまとめている。	・地域の人々が受け継いできた文化財や年中行事の様子を理解している。 ・地域の発展に尽くした先人の働きを理解している。 ・地域の人々の生活の変化や向上が人々の願い、努力や先人の働き苦心によるものであることを理解している。

4 指導観

(1) 単元観

本単元は、学習指導要領の第3学年及び第4学年の内容(5)「地域の人々の生活について、見学、調査したり年表にまとめたりして調べ、人々の生活の変化や人々の願い、地域の人々の生活の向上に尽くした先人の働きや苦心を考えるようにする。」を受けて設定したものである。

なお、新学習指導要領では、第4学年の内容(5)「県内の特色ある地域の様子について、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。ア 次のような知識及び技能を身に付けること。(ア) 県内の特色ある地域では、人々が協力し、特色あるまちづくりや観光などの産業の発展に努めていることを理解すること。(イ) 地図帳や各種の資料で調べ、白地図などにまとめること。イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。(ア) 特色ある地域の位置や自然環境、人々の活動や産業の歴史的背景、人々の協力関係などに着目して、地域の様子を捉え、それらの特色を考え、表現すること。」に位置付けられる。

実際に、地域の人々にインタビューすることにより人々の考えに触れ、まとめることでさらに自分たちのできることを考えられるように指導していく。

(2) 児童観

1学期に社会科「ごみのしまつと再利用」の学習では、リサイクルに出したものはどのような道を通り、自分たちの生活に戻ってくるのかを図書資料から調べ「リサイクル図」にまとめる活動をした。また、中央防波堤埋立処分場を実際に見学したことや調べたことをもとに「ごみのゆくえマップ」にまとめる活動をした。

図書資料で調べたことや実際に見聞きしたことで学習の意欲を継続させごみ収集の仕組みやそこで働く人々の思いや願いを考えることができた。

(3) 教材観

本単元では、単元の初めに「江戸の文化を今に伝える浅草のまち」の学習をし、人々がまちのためにどのような取組をどのような思いで行っているかを学習する。その学習を生かし、自分たちが住む「上野のまち」は、どうあるかを調べ考えさせる。児童の住む上野のまちを取り上げることで児童が興味関心をもちながら進んで学習していくことができる。

単元の途中で総合的な学習の時間とも融合させ、実際に上野のまちに住む人やまちのために取り組んでいる人々に直接インタビューする活動を入れ、人々の思いや願いを調べていく。そして現在の浅草のまち、さらに未来の上野のまちについて考える単元である。

また、第3学年国語科でのインタビューの仕方の学習や第4年年国語科で新聞づくりの学習を生かして調べ、表現していくことができる。既習の技能を活用することで、さらなる定着ができると考えられる。

5 研究主題に迫るための手だて (※資料 「深い学び」を生み出す15の技法)

(1) 思考の活性化を図る課題設定の工夫

○ 児童の身近な課題設定

児童の生活している浅草のまちを題材とすることで興味関心を高める。

(2) 思考を可視化し学びを深めるためのツールの活用

○「聞き取り調査」(※A-3 複数の資料や観察結果の比較) (※B-9 学習モデルの活用)

実際に地域の人々や文化財まちづくりをする人、伝統行事や文化財を守る人、区役所の人に聞き取り調査をすることで、人々の活動や思いをより深く考えられるようにする。本時②では、地域に関わる方として区環境課職員、元町会長、PTA会長、やすり職人、お寺の方、祭りに詳しい方などにインタビューできるようにしている。

そのために本時①では、インタビューの学習モデルとしてインタビューの仕方をプロのアナウンサーにゲストティーチャーとして来ていただき、どのように質問すると課題解決につながるのかを学習させる。

学習の中でさまざまな立場の方々に関わることで学びをより深めることができる。

○「タブレットPC」

インタビューの様子を撮影し、客観視することで、知りたいことを聞き出す質問ができていたか、ふさわしい態度や話し方ができていたかを振り返るためのツールとして活用することができる。

○「新聞」

調査したことを国語科で事前に学習した新聞にまとめることで上野のまちの人々の活動や思いを整理し深めることができる。国語科の学習で使用した新聞の割付方を学習モデルとして提示し、学習したことの活用も図る。

(3) 思考の深化を図る振り返りの充実

○ 視点の明確化 (※C-11 学習成果と自己との関わり)

インタビューの仕方が課題解決につながっていたかを自己評価する。

インタビューにより上野のまちに対する人々の思いについて気付いたことを振り返らせる。

6 単元の指導計画と評価計画 (16時間扱い・うち4時間が総合的な学習の時間)

	○主な学習活動	◇指導上の留意点 ☆評価規準 (評価方法)
つかむ (4時間)	<p>○教科書の資料から伝統や文化をたずねて浅草に多くの観光客が集まることに気づき、上野のまちとの共通点や相違点などから、上野のまちに興味をもつ。</p> <p>○浅草のまちの新しいまちづくりをしている人々の活動や、江戸の伝統を生かしたまちづくりをしている人々の思いや願いを考える。</p>	<p>◇自分たちの住む上野のまちについて考えさせるために教科書の浅草の情報を示す。</p> <p>☆上野の伝統や文化、多くの観光客が集まる場所に関心を持ち、その理由を考えようとしている。 思 (行動観察・記述分析)</p> <p>◇教科書「わたしたちの東京」にのっている浅草のまちの人々の活動や思いを読み取り自分たちの住む上野のまちでは、どうなのか考えさせていく。</p>

	<p>○浅草のまちの文化財や歴史的建造物、伝統行事を守り、まちづくりをしている人々の活動やまちの人と協力してまちづくりをする区役所の人々の活動を調べる。</p> <p>○グループ新聞にまとめることを知る。</p> <p>○上野のまちの伝統や文化を保護・活用したまちづくりをしている人々について考える学習問題を立て、何を新聞に載せるべきかを話し合う。</p>	<p>☆伝統や文化を地域の資源として保護・活用しているまちを活性化させている人々の工夫や努力、協力が分る。知 (行動観察・記述分析)</p> <p>◇国語科で学習したグループ新聞の割り付けや作り方を確認する。</p> <p>◇教師が作成した浅草のまち新聞を提示し、単元の終末を知らせる。</p> <p>◇事前に観光パンフレット等を用意しておく。</p> <p>◇担任がまとめた浅草のまち新聞をモデルとしてどのような新聞にまとめるかを確認する。</p> <p>☆伝統や文化を保護・活用したまちづくりについて学習問題をつくり、調べる計画を立てる。関 (行動観察・記述分析)</p>
<p>調べる (3時間・総合的な学習の時間1時間)</p>	<p>○学習問題を解決するためにどのような情報を集めたらよいかを話し合う。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>(総合的な学習の時間1時間)</p> <p>○上野のまちの人々にインタビューする方法を身に付ける。(本時①)</p> <p>ゲストティーチャー(アナウンサー)を招きインタビューの仕方を学ぶ。</p> </div> <p>○上野のまちの人々にインタビューする。(本時②)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まちづくりをする人の活動や思い ・伝統行事や文化財を守る人の活動や思い ・区役所の人々の活動 <p>○インタビューして分ったことを他のグループと情報交換しながら整理する。</p>	<p>◇インタビューを受ける方を紹介し、新聞に載せるためには、どのようなことを聞いたらよいかを話し合わせる。</p> <p>◇調べるためのインタビューの仕方を学習する。</p> <p>☆まちづくりをしている人々や文化財や伝統行事を守りながらまちづくりをしている人々の活動について調べる。まちの人と区役所の人が協力して行っている活動について調べる。技 (行動観察)</p> <p>◇インタビューできなかった方からの情報は、インタビューしたグループにインタビューして情報を共有できるようにする。その際も、学習したインタビューの仕方を生かせるようにさせる。</p>

<p>まとめる（1時間・総合的な学習の時間3時間）</p>	<p>○学習問題について分かったことをまとめ、上野のまちづくりをしている人々に共通する思いや願いを考える。</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">（総合的な学習の時間3時間）</p> <p>○伝統や文化を保護・活用する上野の人々の思いや願いを受け、分かったことや考えたことを新聞にまとめる。</p>	<p>○立場が異なっても、共通する思いや願いがあることに気付かせる。</p> <p>☆伝統や文化を地域の資源として保護・活用していくまちを活性化させている人々の工夫や努力、協力が分かる。</p> <p style="text-align: right;">知（行動観察・記述分析）</p> <p>☆上野のまちづくりに努める人々の思いや願いを考える。 関（行動観察・記述分析）</p> <p>☆上野のよさを考え、作品に表現している。</p> <p style="text-align: right;">思（記述分析）</p>
-------------------------------	---	---

第4学年総合的な学習の時間学習指導案

日 時：平成29年11月22日（水）5校時
場 所：台東区立上野小学校 第4学年教室
対 象：第4学年1組24名 2組23名
指導者：柴田 直樹 栗山 智子

1 単元名 伝とう文化を生かす～上野のまちのよさを伝えよう～

2 単元の目標

○伝統や文化を地域の資源として保護・活用してまちを活性化している上野の人々の工夫や努力、協力について地域の人々にインタビューし、人々の思いや願い調べる活動を通して現在の地域や自分だけでなく、未来の地域や自分に関心をもって考えることができる。

3 単元で育てようとする資質や能力及び態度

【学習方法に関すること】

- ・必要な情報を収集し分析する。（地域の人へのインタビュー）
- ・相手や目的に応じて、分かりやすくまとめ、表現する。（上野のまち新聞づくり）

【自分自身に関すること】

- ・自己の将来を考え、夢や希望をもつ。

【他者や社会との関わりに関すること】

- ・課題の解決に向けて地域の活動に参加する。

4 単元の評価規準

視点		
学習方法に関すること	収集	地域の人にインタビューし、必要な情報を集めている。 集めた情報を、整理したり、分類したりしながら考えている。
	表現	上野のまち新聞に上野のまちの魅力が伝わるように表現する。
自分自身に関すること	将来	将来のまちの想像の中で自分がどのようになっているか、自分なりの夢や希望をもつことができる。
他者や社会との関わりに関すること	参加	地域の人々の思いを知り、地域のために自分ができることを考えている。

5 研究主題に迫るための手だて（社会科学学習指導案参照）

6 単元の指導計画と評価計画（社会科の学習計画とあわせて実施していく）

	○主な学習活動	◇指導上の留意点 ☆評価規準
(1時間)	○新聞でのまとめ方を知る。	◇国語科の学習とあわせ新聞でのまとめ方をどのように確認する。 ☆収集した情報を整理し新聞にまとめる方法を身に付ける。 学 (行動観察)
(1時間)	○上野のまちの人々にインタビューする方法を身に付ける。(本時①) ゲストティーチャー（アナウンサー）を招きインタビューの仕方を学ぶ。	◇調べるためのインタビューの仕方を学習できるようにゲストティーチャーを招きアドバイスをもらう。 ☆地域の人にインタビューし、必要な情報を集めるための方法を身に付ける。 学 (行動観察)
(3時間)	○伝統や文化を保護・活用する上野の人々の思いや願いを受け、分かったことや考えたことを新聞にまとめる。	☆上野のまち新聞に上野のまちの魅力が伝わるように表現する。 学 (行動観察・記述分析) ☆将来のまちの想像の中で自分がどのようになっているか、自分なりの夢や希望をもつことができる。 自 (記述分析) ☆地域の人々の思いを知り、地域のために自分ができることを考えている。 他 (記述分析)

7 本時①（6時間目／全16時間社・総）総合的な学習の時間 4年1組

(1) 目標 地域の人にインタビューし、新聞づくりに必要な情報を集めるための方法を考える。

(2) 展開

	主な学習活動 ・ 予想される児童の反応	◇指導上の留意点 ☆評価規準（評価方法）
導入	<p>1 前時に決定した学習課題とその解決方法を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上野の伝統をどのように守っているのかを調べたい。 ・上野のまちは、どのように新しいものを取り入れているのかを調べたい。 	<p>◇学習課題を確認する。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>手だて（1） 自分の住む上野のまちの人の思いや願いを知り、新聞にまとめるためにはどのようなインタビューをすればよいかを考えることで意欲的に取り組めるようにする。</p> </div>
展開	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px; text-align: center;"> 上野のまち新聞を完成させるためのインタビューの仕方を考えよう。 </div> <p>2 3年生で学習したインタビューの仕方を振り返る。</p> <p>3 インタビューの質問の作り方をゲストティーチャー（アナウンサー）から学び、新聞に載せたいことからインタビューで聞くべきことを考える。（個人）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上野のまちの魅力はどこですか。 ・上野のまちのためにやっていることは、なんですか。 ・上野のまちがどうなるといいと思いますか。 <p>4 グループごとに話し合い、聞くことを決める。（グループ）</p> <p>5 インタビューするときに注意することを学ぶ。 （姿勢・さらに深く聞くための質問の仕方・メモの取り方）</p> <p>6 インタビュー練習をする。（グループ）</p>	<p>◇3年生の国語で学習したインタビューの仕方を確認する。</p> <p>◇質問の作り方のポイントをゲストティーチャーに話してもらおう。</p> <p>◇上野のまちで行っている取組や活動、それに対する思いを聞き出せる質問内容を考えさせる。</p> <p>◇インタビューを受ける相手を確認する。</p> <p>◇グループの新聞に載せたい内容に沿った質問にするという視点で決定させる。</p> <p>◇インタビューの際に気を付けるべきポイントを態度・質問の仕方に絞ってゲストティーチャーに話してもらおう。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>手だて（2） インタビューの仕方をゲストティーチャーに指導していただき学習モデルを示す。 タブレット PC で撮影したものを振り返ることでインタビューの様子を振り返られるようにする。</p> </div> <p>◇タブレット PC で撮影し、自分のインタビューの様子を確認できるようにする。</p> <p>◇アナウンサーにアドバイスをもらう。</p>

		☆地域の人にインタビューし、必要な情報を集めるための方法を考え身に付ける。 学（行動観察）
終末	7 振り返りをする。	◇教えていただいたインタビューの方法が身に付き、次回のインタビューに生かせるかを振り返らせる。 手だて（3） 上野のまち新聞を完成させるためのインタビューの内容や仕方を考え、次回インタビューをするときの準備ができたかを振り返る。

8 本時①のルーブリック評価

	課題に向かう力	課題を解決する 思考力・表現力	学びを振り返る力
付きたい力 レベル	情報を意欲的に集めようとする力	インタビューの方法を知り、内容を考える力	自分のインタビューの仕方を振り返り、評価する力
レベル3	インタビュー方法を積極的にゲストティーチャーに質問して身に付けようとする。	インタビューの質問を新聞に載せる目的に合わせて二つ以上考えることができる。	自分のインタビューの仕方を振り返り改善点を見付けることができ、友達にもアドバイスができる。
レベル2	インタビュー方法を積極的に身に付けようとする。	インタビューの質問を新聞に載せる目的に合わせて考えることができる。	自分のインタビューの仕方を振り返り改善点を見付けることができる。
レベル1	インタビュー方法を知る。	新聞に載せる目的に合わせた質問を考えることができない。	友達のアドバイスを聞くことができる。

9 本時①板書計画

伝とう文化を生かす～上野のまちのよさをつたえよう～	
<input type="checkbox"/> めあて 上野のまち新聞を完成させるためのインタビューの仕方を考えよう。 <input type="checkbox"/> インタビューする相手・・・上野のまちの人 <input type="checkbox"/> インタビューで聞きたいこと ・上野のまちをどう思うか。 ・どんな取り組みをしていますか。	<input type="checkbox"/> インタビューの仕方 ・相手の目を見る。 ・メモをとる。 ・質問をする。
<input type="checkbox"/> インタビュー名人に教えてもらったこと	

10 本時②（7時間目／全16時間社・総）社会科 4年2組

(1) 目標

課題を解決するために、上野のまちの人々にインタビューをし、まちづくりをしている人々や文化財や伝統行事を守りながらまちづくりをしている人々の活動や思いについて調べる。

(2) 展開

	主な学習活動 ・ 予想される児童の反応	◇指導上の留意点 ☆評価規準（評価方法）
導入	1 学習課題と学習したインタビューの仕方を確認する。	◇インタビューの仕方のモデルを提示する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>手だて（1） 自分の住む上野のまちの人の思いや願いを直接インタビューすることで意欲的に取り組めるようにする。</p> </div>
展開	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin-bottom: 10px; text-align: center;"> 上野のまち新聞を完成させるためのインタビューをしよう。 </div> 2 インタビューさせていただき地域の方の紹介を聞く。 3 代表児童が、全グループ共通の質問をする。 ・上野のまちの魅力はなんですか。 4 グループごとにインタビューをする。 2名の方にインタビューする。 ・上野のまちのためにやっていることは、なんですか。 ・上野のまちがどうなるといいと思いますか。 一人目のインタビュー（約10分）が終わったところでインタビューの振り返りを行う。 二人目のインタビューが終わったところでインタビューの振り返りを行う。	◇事前に地域の方についての情報を調べておき、教員から紹介する。 ◇インタビューを受けてくださる方には、事前に趣旨を説明しておく。 ◇代表児童にインタビュー、メモ、タブレットPCでの撮影をさせ、インタビューの仕方を確認する。 ◇共通の質問をすることで、その後のインタビューに生かすようにさせる。 ◇質問や態度・質問の仕方に気を付けさせる。より深い質問ができるよう、掲示してある「インタビュー魔法の言葉」を活用するように声をかける。 ◇インタビューの振り返りでは、次のインタビューに生かせるアドバイスをお互いに伝え合うようにする。 ◇ゲストティーチャー（アナウンサー）に全体のインタビューの振り返りとアドバイスをしてもらう。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>手だて（2） タブレットPCでインタビューの様子を撮影することで、新聞をつくるための質問ができているか、ふさわしい態度や話し方ができているかを確認させる。</p> </div>

	5 インタビューで分かったことをまとめる。 (個人) (全体)	☆まちづくりをしている人々や文化財や伝統行事を守りながらまちづくりをしている人々の活動について調べる。 技 (行動観察)
終末	6 振り返りをする。	◇学習に対する自己評価をさせ、インタビューをしたことによって深まった点について振り返りを書くようにする。 手だて (3) 自分のインタビューを振り返り、上野のまち新聞を完成させるためのインタビューができ、インタビューをすることで発見したことを振り返る。

1 1 本時のルーブリック評価

	課題に向かう力	課題を解決する 思考力・表現力	学びを振り返る力
付きたい力 レベル	情報を意欲的に集めようとする力	課題解決のための情報収集をする力	自分のインタビューを振り返り、評価する力
レベル3	インタビューでの役割を守り、積極的に情報を集めようとする。	課題解決に必要な情報をインタビューから収集することができ、収集した情報からさらに知りたいことを質問することができる。	自分のインタビューの仕方を振り返り改善点を見付けることができ、友達にもアドバイスができる。
レベル2	インタビューでの役割を守り活動する。	課題解決に必要な情報をインタビューから収集することができる。	自分のインタビューの仕方を振り返り改善点を見付けることができる。
レベル1	インタビューに参加する。	課題解決に必要な情報をインタビューから収集することができない。	友達のアドバイスを聞くことができる。

1 2 本時②板書計画

伝とう文化を生かす～上野のまちのよさをつたえよう	
めあて 上野のまち新聞を完成させるためのインタビューの仕方を考えよう。	まとめ インタビューをして分かったこと
元町会長 Aさん 台東区観光課Bさん PTA会長 Cさん 職人 Dさん	ふりかえり ・新聞をつくるための情報を引き出すことができたか。
○インタビューの仕方 ・相手の目を見る。 ・メモをとる。 ・質問をする。	

第5学年理科学習指導案

日 時：平成29年11月22日（水）5校時

場 所：台東区立上野小学校 第5学年教室

対 象：第5学年1組25名 2組24名

指導者：諏訪 智春

鈴木 陽介(T1) 阿部 亜季(T2)

1 単元名

電磁石の性質を調べよう

2 単元の目標

○電磁石の導線に電流を流したときの、電流の働きに興味・関心をもって追究する。

＜関心・意欲・態度＞

◎電磁石の性質を調べるために自分なりの根拠をもって予想し、実験の計画を立てたり、結果から分かったことを表現したりする。

＜思考・表現＞

○安全で計画的に実験を行い、その過程や結果を定量的に記録する。

＜技能＞

○電磁石の仕組みや性質について理解する。

＜知識・理解＞

3 単元の評価規準

自然事象への 関心・意欲・態度	科学的な思考・表現	観察・実験の技能	自然事象についての 知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> 電磁石の導線に電流を流したときに起こる現象に興味・関心をもち、自ら電流の働きを調べようとしている。 電磁石の性質や働きを使って、おもちゃを作ろうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 電磁石の極の変化と電流の向きを関係付けて考察し、自分の考えを表現している。 電磁石に電流を流したときの電流の働きの変化とその要因について予想をもち、条件に着目して実験を計画し、表現している。 電磁石の強さと電流の大きさや導線の巻数を関係付けて考察し、自分の考えを表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> 導線などを適切に使って、安全で計画的に電磁石を作っている。 簡易検流計などを適切に使って、安全で計画的に実験を行っている。 電磁石の強さの変化を調べ、その過程や結果を定量的に記録している。 	<ul style="list-style-type: none"> 鉄を入れたコイルに電流を流すと、電磁石になることを理解している。 電流の向きが変わると電磁石の極が変わることを理解している。 電磁石の強さは、電流の大きさや導線の巻数によって変わることを理解している。

4 指導観

(1) 単元観

本単元は、第4学年「電気のはたらき」の学習を踏まえて、「エネルギー」の内容のうちの「エネルギーの変換と保存」に関わるものであり、第6学年「電気の性質とその利用」の学習につながるものである。

本単元では、電磁石を使ってその働きを調べる活動を通して、電流と磁力の関係に気付き、電流の向きが変わると電磁石の極が変わること、電磁石の強さは電流の強さやコイルの巻数によって変わることを理解できるようにする。また、実験を通して電流の働きについての見方や考え方をもつことができるようにする。単元の最後には、電磁石の性質を利用したおもちゃ作りや、モーターなどに利用される電磁石について考えることなどから、学習内容の定着と活用を図るようにする。

(2) 児童観

実験や観察に対して、すすんで取り組む学年である。1学期に取り組んだ、雲、メダカ、インゲンマメの観察では、とても丁寧にスケッチしたり、記録文を書いたりしている児童が多かった。

しかし、自分で調べたり、経験したりして知識を獲得した経験が少ないため、根拠をもって自分の意見を述べることに課題がある。意見の発表や話し合い活動を通して、児童が根拠をもって自分の意見を述べる力を身に付けさせたい。

(3) 教材観

電磁石は、その装置の見慣れなさから、児童は自分の身の回りに電磁石の性質を使った道具がたくさんあるということに気が付きにくい。電磁石の実験は児童にとって新たな発見が多く驚きのある教材である。ただ楽しいだけではなく「楽しい＝分かる」になるよう、思考させたり話し合わせたりし、理解を深めさせていきたい。そのために、単元の導入段階で児童自ら問題を考え、それについて解決を図っていく学習形態をとり、自ら学ぶ姿勢をもたせていきたい。また、獲得した知識を活用できないと学習内容が定着したとは言えないので、自分自身で電磁石の特性を利用したおもちゃを作ることによって獲得した知識を生かし、電磁石について確実に理解できるようにする。

5 研究主題に迫るための手だて (※資料 「深い学び」を生み出す15の技法)

(1) 思考の活性化を図る課題設定の工夫

導入での課題提示では、児童の驚きや疑問を引き出し、興味・関心をもって予想を立てたり、問題を考えたりできる事象提示を行う。また、児童が友達と関わり、学び合って深い学びにつながるよう、意識して取り組んでいく。

○児童の驚きや疑問を引き出し、考えたい事象提示を行う。

(※C-1 原因や因果関係、関連性を探る)

○児童の意見を基にした実験ブースを作り、ペアで予想を検証する。

(※A-1 資料やデータに基づいて考察する A-3 複数の資料や観察結果を比較して結論を導く)

(2) 思考を可視化し学びを深めるためのツールの活用

○問題作りをし、付箋で仲間分けして分類させる。

(※B-7 異なる多様な考えの比較、C-1 5 視点・観点・論点の明確化)

○ボードや画用紙に班での考えや実験計画を文字や図に表すことで意見を可視化させる。

(※A-4 友達との練り合いや練り上げ、C-15 視点・観点・論点の明確化)

○話型モデルを示し、話合いの論点を明確にする。(※B-9 学習モデルの活用)

○電磁石の性質を利用したおもちゃを作るための計画書を作成させる。

(※A-1 資料やデータに基づいた考察、A-2 既習知識・技能の活用)

(3) 思考の深化を図る振り返りの充実

○視点を明確にし、本時の学習内容に沿った振り返りができるようにする。

(※C-11 学習成果と自己との関わり)

視点 分かったこと 気付いたこと 疑問に思ったこと 友達の意見を聞いて考えたこと
もっと知りたいこと

○導入で、前時の振り返りを確認し、学習したことを定着させていく。

(※C-11 学習成果と自己との関わり、C-14 R-PDCAサイクルで活動改善)

課題を発見したり、予想を立てたりする時間は、実験の結果が出ていないため「分かったこと」や「気付いたこと」は実感しづらい。学習活動によっては、友達の意見を聞き納得できたことや、学習を通してもっと知りたいこと、疑問に思ったことを書き、振り返りをしていく。

6 単元の指導計画と評価計画 (11時間扱い)

次	時	○主な学習活動	◇指導上の留意点 ☆評価規準 (評価方法)
一	1	○体験や動画を通して、身の回りで電磁石が使われている装置を知り、電磁石の性質について話し合う。	◇電磁石の製作や探究の意欲が高まる事象提示をする。 ☆電磁石の導線に電流を流したときに起こる現象に興味・関心をもち、自ら電流の働きを調べようとしている。 関 (発言分析・記述分析・行動観察)
	2・3	○電磁石を作る。 ○電磁石ができたかどうか確かめる。	◇コイルの巻数を意識して電磁石を製作させる。 ◇磁石との違いに気付くように促す。 ◇安全に注意させる。 ☆導線などを適切に使って、安全で計画的に電磁石を作っている。 思 (行動観察・作品分析) ☆鉄を入れたコイルに電流を流すと、鉄心が磁化することを理解している。 知 (記述分析)
	4	○電磁石の極を変えるためにはどうするかを実験する。	◇既習事項を確認して実験に取り組みさせる。 ☆電磁石の極の変化と電流の向きを関係付けて考察し、自分の考えを表現している。 思 (発言分析・記述分析) ☆電流の向きが変わると電磁石の極が変わることを理解している。 知 (発言分析・記述分析)
二	5 (本時①)	○電磁石が鉄を引き付ける力を、もっと大きくするにはどうしたらよいかを話し合う。	◇強力電磁石を使用し、思考に意欲をもたせる。 ◇既習事項を確認し、予想を立てやすくさせる。 ◇条件を整理して実験計画を立てさせる。 ☆電磁石に電流を流したときの電流の働きの変化とその要因について予想をもち、条件に着目して実験を計画し、表現している。 思 (発言分析・記述分析)

6 (本時②)	<p>○第5時で話し合った内容について、実験を行う。</p> <p>○実験結果をまとめる。</p>	<p>◇条件整備をし、実験に取り組みさせる。</p> <p>◇実験結果を定量的に表現できるようにする。</p> <p>◇安全に注意させる。</p> <p>☆簡易検流計などを適切に使って、安全で計画的に実験を行っている。 思 (行動観察・記録分析)</p> <p>☆電磁石の強さの変化を調べ、その過程や結果を定量的に記録している。 知 (行動観察・記録分析)</p>
7	<p>○他の班が行った実験を試し、第6時で行った実験が正しいかどうか検証する。</p>	<p>◇前時の振り返りを行い、結果を確認してから始める。</p> <p>◇実験結果を定量的に表現できるようにする。</p> <p>◇安全に注意させる。</p> <p>☆簡易検流計などを適切に使って、安全で計画的に実験を行っている。 思 (行動観察・記録分析)</p> <p>☆電磁石の強さの変化を調べ、その過程や結果を定量的に記録している。 知 (行動観察・記録分析)</p>
8	<p>○身の回りの、電磁石の性質を使った物について知る。</p> <p>○第1時で出た児童の疑問(その他)について考え、必要なら実験を行う。</p>	<p>◇児童に身近な物を紹介する。</p> <p>◇授業前日までに実験に必要な材料を集めておく。</p> <p>☆電磁石の強さと電流の大きさや導線の巻数を関係付けて考察し、自分の考えを表現している。 思 (発言分析・記述分析)</p> <p>☆電磁石の強さは電流の強さや導線の巻数によって変わることを理解している。 知 (発言分析・記述分析)</p> <p>☆電磁石の導線に電流を流したときに起こる現象に興味・関心をもち、自ら電流の働きを調べようとしている。 関 (発言分析・行動分析)</p>
9 ・ 10	<p>○電磁石の性質を使ったおもちゃを作る。</p>	<p>◇開始前に計画書を作らせる。</p> <p>◇授業前日までに、必要な材料を集めておく。</p> <p>◇安全に注意させる。</p> <p>☆電磁石の性質や働きを使って、おもちゃを作ろうとしている。 関 (行動観察・発言分析)</p> <p>☆電磁石の性質を利用して、おもちゃ作りをしている。 技 (行動観察・作品分析)</p>
11	<p>○電磁石の性質を使ったおもちゃを友達に紹介する。</p>	<p>◇計画書を基に友達に紹介させる。</p> <p>◇友達と一緒におもちゃで遊んだり、改良したりする。</p> <p>◇安全に注意させる。</p> <p>☆電磁石の性質を利用して、おもちゃ作りをしている。 技 (行動観察・発言分析)</p> <p>☆おもちゃの性質に興味・関心をもち、電磁石の働きを調べようとしている。 関 (発言分析・行動分析)</p>

7 本時①（5時間目／全11時間） 5年1組

(1) 目標

電磁石に電流を流したときの電流の働きの変化とその要因について予想をもち、条件に着目して実験を計画し、表現する。

(2) 展開

	主な学習活動 ・ 予想される児童の反応	◇指導上の留意点 ☆評価規準（評価方法）
導入	<p>1 既習事項と本時のめあてを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前の学習では電磁石の性質を学習した。 ・4年生では電流の学習をして、直列つなぎと並列つなぎがあった。 ・「電磁石」と「磁石」は何がちがうのだろう。 <p>2 電磁石の引っ張り合いをして、強い電磁石を体感する。</p>	<p>◇既習事項（電磁石の作り方、極の変え方、電池のつなぎ方、磁石との違い）を押さえる。</p> <p>◇大小様々な物を持ち上げる機械を紹介し、電磁石を強くすることに興味をもたせる。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>手だて（1） 児童の驚きや疑問を引き出し、考えたいくなる事象提示を行う。</p> </div>
<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; display: inline-block; padding: 5px 20px;">電磁石の鉄を引き付ける力を強くする方法を考えよう</div>		
展開	<p>3 強力な電磁石を作るための方法を個人で予想する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電池を増やせばより強力になると思う。 ・コイルを巻く回数を増やそう。 ・電池の大きさを変えてみてはどうか。 ・導線を短くすれば、電気が寄り道せず力が多く伝わるのではないだろうか。 ・鉄心を太くすればいいのでは。 <p>4 個人の予想を基に、調べてみたい方法の実験計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巻き数を多くするという人が多いね。 ・電池を多くすると書いてある人が多いけど、どのようにつなげばいいのかな。 ・コイルの巻き方はどのように変えよう。 ・植物の成長の時と同じように、条件は一つだけ変えないと、変化が分からない。 	<p>◇できる限りたくさん挙げられるよう、電流の学習や今までの学習を想起させる。</p> <p>◇変える条件と変えない条件を考え、実験の方法を予想カードにまとめる。</p> <p>◇個人の予想を基に話し合わせ、既習事項から考えられるようにし、自分なりの根拠をはっきりさせる。</p> <p>☆電磁石に電流を流したときの電流の働きの変化とその要因について予想をもち、条件に着目して実験を計画し、表現している。</p> <p style="text-align: right;">☒（発言分析・記述分析）</p>

	<p>5 発表用のボードに書き込み、発表の準備をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電池を2個使ってつなげてみよう。 ・釘の周りにたくさんコイルを巻いているように書き込んでみよう。 ・鉄心を太いものに変えてみよう。 <p>6 各班から実験計画を発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電池を二つつなげる。 ・コイルの巻き数を増やす。 ・導線をできるだけ短くする。 ・電池を単一電池に変える。 ・鉄心を太いものに変える。 	<p>◇変える条件が見やすいように、基本の接続方法を掲示しておく。</p> <p>◇ボードに絵でまとめることで、視覚的に分かりやすくする。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>手だて（2）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボードに、考えや実験計画を文字や図に表すことによって、意見を可視化する。 ・話型モデルを示し、話合いの論点を明確にする。 </div>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">終末</p>	<p>7 振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どの実験でも、条件を一つだけ変えることが大事だ。 ・変える条件と変えない条件を整理することで、電磁石の強さの変化が分かった。 ・友達の意見で納得したものがあつたので、参考に調べてみたい。 	<p>◇これまでの学習と比較したり、友達の意見を聞いたりして、納得したことや不思議に思ったことを書かせる。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>手だて（3）</p> <p>友達や他の班の発表を聞いて思ったこと、今後の学習で調べてみたいことなどについて振り返りをしていくよう伝える。</p> </div>

8 本時①のルーブリック評価

	課題に向かう力	課題を解決する 思考力・表現力	学びを振り返る力
<p style="text-align: center;">付きたい力 レベル</p>	<p>個人で予想する力</p>	<p>条件に着目して実験計画を立てる力</p>	<p>友達と交流したことを基に、自分の考えに生かす力</p>
<p style="text-align: center;">レベル3</p>	<p>電磁石の性質を理解し、電流の大きさや、導線の巻き数に着目し、電流の働きについて自らすすんで予想する。</p>	<p>電流のは働きの変化とその要因について自分なりに根拠のある予想を基に、条件に着目して実験の計画を立て、分かりやすく表現する。</p>	<p>友達の意見を聞き納得できたことや、学習を通してもっと知りたいこと、疑問に思ったことを書いて振り返る。</p>
<p style="text-align: center;">レベル2</p>	<p>電磁石の性質を理解し、興味・関心をもち、電流の働きについて予想する。</p>	<p>電流の働きの変化とその要因について、条件に着目して実験を計画し、表現する。</p>	<p>学習感想のみでなく、本時で学習したことや友達の意見についてなどを書いて振り返る。</p>
<p style="text-align: center;">レベル1</p>	<p>友達の考えを参考に予想する。</p>	<p>友達の考えを参考に表現する。</p>	<p>学習感想を記述して振り返る。</p>

9 本時①の板書計画

11月22日 電磁石の性質

めあて 電磁石の鉄を引きつける力を強くする方法を考えよう

ふり返り

《学習の流れ》

自分で予想→班で話し合い→発表準備→発表→ふり返り

- どの実験でも、条件を一つだけ変えることが大事だ。
- 変える条件と変えない条件を整理することで、電磁石の強さの変化が分かった。
- 友達の意見で納得したものがあったので、参考に調べてみたい。

計画ボード

10 本時②（6時間目／全11時間） 5年2組

(1) 目標

電磁石の強さが電流の大きさや導線の巻数によって変わることを実験結果から考察し、自分の考えを表現する。

(2) 展開

	主な学習活動 ・ 予想される児童の反応	◇指導上の留意点 ☆評価規準（評価方法）
導入	1 本時の進め方を確認する。 前時の予想を基に実験を進めていくことを知る。	◇前回の計画ボードを見て、自分たちの予想を確認させる。
展開	電磁石の鉄を引き付ける力を強くする方法を探ろう。	
	2 実験の注意を知る。 実験の際の危険を知り、安全に実験する。 3 実験をする。 ・コイルをたくさん巻いたら、引き付ける力が強くなると思うから、コイルのブースに行って実験しよう。 ・電池を多くすることが必要だと思うから、電池のブースに行って実験しよう。 ・電池のつなぎ方が大事だと思うから、直列つなぎと並列つなぎ、どちらのつなぎ方も確認したい。 ・単一電池は大きいので、電流が大きくなると思うから実験してみよう。 ・巻いていない部分の導線を短くすれば、もっと力が伝わるはずだ。導線のブースに行って実験しよう。 4 実験結果をペアや班で交流する。 ・コイルの巻き数を増やす実験をした。その結果クリップがたくさんついた。 ・電池を増やして直列つなぎにした。その結果クリップがたくさんついた。 ・電池を増やして並列つなぎにしました。結果は変わらなかった。	◇専門的な部分の説明を行う。(T2) ◇直列つなぎにすると導線をつないでいる場所がとても熱くなる等、理解しやすいようにICTを用いて実験の注意事項を確認する。 ◇前時に児童から出た意見を基に、各ブースを作り、必要な実験道具を揃えておく。(T2) ◇自分の予想を基に実験し、結果をワークシートに書き込むよう声をかける。 ◇消耗した電池は使わない等、測定する条件をどの班も同じにする。 手だて（1） 児童の興味・関心をもった実験に取り組めるよう、児童の意見を基にしたブースを作る。 ◇実験結果を共有することで、自分の実験以外の結果も知ることができるようにする。 ◇話型カードを使い、発表をスムーズに行えるようにする。 手だて（2） 話型モデルを示し、話合いの論点を明確にする。

	<ul style="list-style-type: none"> ・単一電池に変えて実験しましたが、結果は変わらなかった。 ・導線を短くしてみました、結果は変わらなかった。 <p>5 考察をする。 全ての実験結果を班で交流した後に、個人で分かったことを考える。</p>	<p>◇結果から考えたことを一人一人書くことによって、理解を深める。</p>
終末	<p>6 まとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電池を直列つなぎにしたら強力になったので、電流を大きくすると引きつける力が強くなることが分かった。 ・コイルの巻き数を多くすると引きつける力が強くなることが分かった。 <p>7 振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・流れる電気の量によって、電磁石が強くなることが分かった。 ・前回の電磁石はどのくらい強力なのか、調べてみたい。 	<p>☆電磁石の強さが電流の大きさや導線の巻数によって変わることを実験結果から考察し、自分の考えを表現する。</p> <p style="text-align: right;">☒ (発言分析・記述分析)</p> <p>◇振り返りのポイントを示し、本時で考えたことが深化できるようにする。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>手だて(3) 結果から考えたこと、今後の学習で調べてみたいことなどについて振り返りをさせる。</p> </div>

1.1 本時②のルーブリック評価

	課題に向かう力	課題を解決する 思考力・表現力	学びを振り返る力
付きたい力 レベル	意欲的に調べようとする力	予想を基に条件に着目して実験する力	友達と交流したことを自分の考えに生かす力
レベル3	前時で出た実験計画を基に、引き付ける力の強さを自らすすんで調べようとする。	自分なりの根拠のある考えをもち実験に取り組み、自分自身の実験結果と友達の実験結果を参考に、引き付ける力が強くなる条件を考察する。	友達の意見を聞き納得できたことや、学習を通してもっと知りたいこと、疑問に思ったことを書いて振り返る。
レベル2	前時で出た実験計画を基に、引き付ける力の強さを調べようとする。	実験結果から、引き付ける力が強くなる条件を考察する。	引き付ける力を強くするために分かったことを記述している。
レベル1	友達の実験を見て、調べようとする。	友達の意見を聞いて、記述する。	学習感想を記述する。

1 2 本時②の板書計画

11月22日 電磁石の性質

めあて 電磁石の鉄を引きつける力を強くしよう

《学習の流れ》

実験→結果発表→まとめ→振り返り

まとめ

電流を大きくしたり、コイルの巻き数を多くしたりすると引きつける力が強くなる。

振り返り

- ・ 流れる電気の量によって、電磁石が強くなることが分かった。
- ・ 前回見た動画のような機械はどのくらい強力な電磁石を使っているのか、調べてみたい。

計画ボード

第6学年体育科学習指導案

日 時：平成29年11月22日（水）5校時

場 所：台東区立上野小学校 校庭

対 象：第6学年 1組24名 2組23名

指導者：宮田 花 佐藤 秀人

1 単元名

体づくり運動（ア 体ほぐしの運動 イ 体力を高める運動）

2 単元の目標

◎次の運動を行い、体を動かす楽しさや心地よさを味わうとともに、体力を高めることができるようになる。
＜運動＞

- ・体ほぐしの運動では、心と体の関係に気付いたり、体の調子を整えたり、仲間と交流したりするための手軽な運動や律動的な運動をすること。
- ・体力を高める運動では、ねらいに応じて、体の柔らかさ及び巧みな動きを高めるための運動、力強い動き及び動きを持続する能力を高めるための運動をすること。

○運動にすすんで取り組み、助け合って運動をしたり、場や用具の安全に気を配ったりすることができるようにする。
＜関心・意欲・態度＞

○自己の体の状態や体力に応じて、運動の行い方を工夫できるようにする。
＜思考・判断＞

3 単元の評価規準

	運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動
単元の評価規準	<ul style="list-style-type: none">・体を動かす楽しさや心地よさを味わったり、自分の体力を高めたりすることができるよう、体づくり運動にすすんで取り組みもうとしている。・約束を守り、仲間と助け合って運動しようとしている。・用具の準備や片付けで、分担された役割を果たそうとしている。・運動する場を整備したり、用具の安全を保持したりすることに気を配ろうとしている。	<ul style="list-style-type: none">・体ほぐしの運動のねらいを知るとともに、ねらいに応じた運動の行い方を選んでいる。・体力を高める運動のねらいや行い方を知るとともに、自分の体力に合った運動の行い方を選んでいる。	<ul style="list-style-type: none">・体の柔らかさ、及び巧みな動きを高めるための運動、力強い動き及び動きを持続する能力を高めるための運動のねらいに合った動きができる。

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">学習活動に即した評価規準</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・体づくり運動にすすんで取り組もうとしている。 ・用具の使い方や運動の行い方のきまりを守って運動しようとしている。 ・友達と協力して、用具の準備や片付けをしようとしている。 ・場や用具の安全に気を配り、互いに協力して運動しようとしている。 ・友達に言葉を掛けたり、運動の補助をしたりして、協力して運動しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動すると心が軽くなることや、体の力を抜くとリラックスできることなど、心と体は関係し合っていることに気付いている。 ・体ほぐし運動の三つのねらいに合った運動を選んでいる。 ・どのような運動を行うと体力が高まるのか理解している。 ・自分の体力から課題を知り、自分に合った運動を選んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・易しい基本的な動き(基になる動き)に取り組み、運動の仕方や工夫の仕方に基づいて正しく運動することができる。 ・体力を高めるために自己の課題に合った運動を行うことができる。 ・動きのポイントを生かして工夫した運動の仕方に基づいて行うことができる。
---	---	---	---

4 指導観

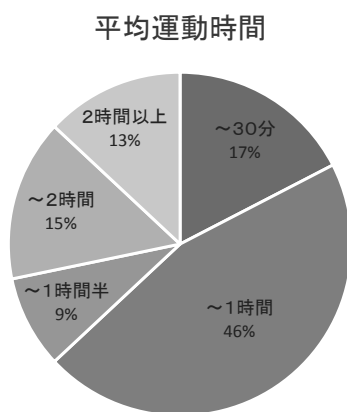
(1) 単元観

小学校学習指導要領解説体育編第3章3節A体づくり運動によると、体ほぐしの運動は、心と体の関係に気付いたり、体の調子を整えたり、仲間と交流したりするための手軽な運動や律動的な運動のことである。体力を高める運動は、ねらいに応じて、体の柔らかさ及び巧みな動きを高めるための運動、力強い動き及び動きを持続する能力を高めるための運動である。また、体力の向上を直接のねらいとして行われる運動なので、一人一人の児童が体力を高めるためのねらいをもって運動をするところに、他の運動との違いがある。児童が必要を感じ、基礎的・基本的な内容を身に付けることができるようにするとともに、単調な動きの反復に終わらないよう、工夫する必要がある。

(2) 児童観

本学年47名の児童を対象に、体づくり運動と学習の進め方に関する意識調査を行った。

○日常生活の運動に関すること



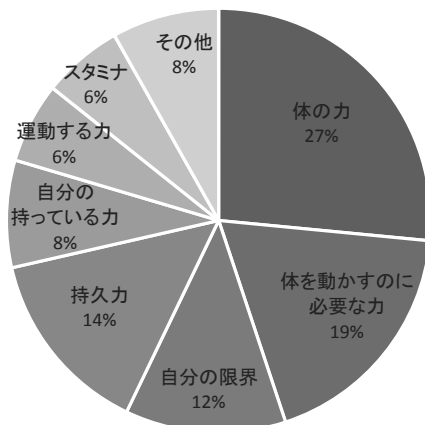
「体育が好きですか」という質問に対して、好きと答えた児童が77%、そうではない児童が23%だった。

一日の平均運動時間を見てみると、30分以下の児童が17%おり、体育が好きでないと答えた児童と重なることが分かった。

運動の内容を見てみると、同じ遊びを繰り返し行っていたり、習い事のスポーツに限定されていたりと、運動の種類にも偏りがあることが分かった。

○体づくり運動に関すること

体力とはなんですか



「体力とはなんですか」という質問には、「体の力」「体を動かすのに必要な力」「自分の限界」「持久力」などと答えており、児童によって様々な捉え方をしていることが分かった。単元の始めに、「体力とは何か」を学習する必要がある。

また、体力を高める運動の4領域で苦手なものを調査すると、本校の6年生は体の柔らかさ、動きを持続する力、巧みな動き、力強い動きの順になるということが分かった。

○学習の進め方に関すること

1学期に行ったアンケートでは、「体育の学習で自分の力を伸ばすことを意識して運動している」と答えた児童が62%いたのに対し、2学期のアンケートでは72%になり10ポイント伸びた。1学期に行った授業（陸上運動・水泳）では、お互いに運動を見合ったり、運動のポイントやコツを見付けたり、なぜうまくいった（いかなかったか）を考えたりして授業を進めてきた。本単元でも児童に自分の体力を高めるためにはどうしたらよいかを考えさせながら指導を行っていく。

「振り返りをしてよかったと思うことがありますか」という質問にあると答えた児童は67%で、1学期に比べて7ポイント増えた。なぜよいと思うかの理由として、「今日の学習がよかったかどうか分かるから」「自分の理解度が分かるから」「次の目標を決められるから」「振り返りで出たアドバイスを次に生かせるから」という意見が挙げられた。一方で、振り返りのよさを感じていない児童がまだ33%いることが分かった。振り返りを通して、児童が自分の課題を再確認し、次時への意欲を高めたり、目標を決めたりできるよう工夫したい。

(3) 教材観

体育科における深い学びとは、運動を通して自分の体の様子や課題を捉え、体力の向上や技能の習得のために課題に合った練習に取り組み、よりよい運動を追究することだと考える。

体づくり運動は、心や体の変化に気付いたり、運動の行い方の工夫を見付けたり、体力の高まりを実感したりすることで楽しさを味わうことのできる運動である。

運動する前の気持ち、運動しているときの気持ち、運動した後の気持ちを比べて振り返り、運動すると心が軽くなったり、体の力を抜くとリラックスできたりするなど、心と体は関係し合っていることに気付かせるようにする。また、運動を通して、仲間と豊かに関わる楽しさを体験し、さらには仲間のよさを認め合うことができるようにしたい。

体づくり運動で取り扱う運動は、児童にとって日常生活や普段の運動では取り組むことの少ない動きが多い。この時期の児童の発達段階において、十分に味わったことのない運動を工夫したり、教え合ったりすることは難しい。そのため単元の前半ではまず、基になる動きを十分に味わった上で、後

半に運動の行い方を工夫したり、見合ったり教え合ったりする学習を多く取り入れることにした。体力を高める運動で工夫する視点としては、人数、回数、距離、時間、姿勢、用具、方向などがあり、小学校高学年の発達段階を考え、体の柔らかさや巧みな動きを高めるための運動に重点を置いて指導する。

5 研究主題に迫るための手だて (※資料 「深い学び」を生み出す15の技法)

体づくり運動における深い学びを実現するために、以下の3点について手だてを考えた。

(1) 思考の活性化を図る課題設定の工夫

○目標の設定 (※A-1 資料やデータに基づいた考察)

普段の生活や、スポーツテスト、体育の学習など、具体的で身近な事例を取り上げ、体力の必要性を実感させる。さらに、自分はどんな力を付けたいか、それはなぜかを考えさせる。その上で、本単元における自分の伸ばしたい力を意識させ、目標を設定する。

○学習資料 (※B-9 学習モデルを活用した思考や表現)

基になる動きを示し、何をすると、体の柔らかさ及び巧みな動き、力強い動き及び動きを持続する能力が高まるか分かるようにする。さらに、基の動きについて条件を変化させた例を示し、動きの広げ方が分かるようにする。

(2) 思考を可視化し学びを深めるためのツールの活用

○学習カード (※C-1 1 学習成果と自己との関わり)

取り組む運動が、どの体力を高めるためのものなのかが分かり、めあてを明確に意識できるものにする。

○情報の共有 (※B-9 学習モデルを活用した思考や表現)

動きを共有するために、見付けた運動の工夫をカードに書かせ掲示する。

○トリオ (※A-4 友達との練り合いや練り上げ)

単元を通して体力の異なる児童でトリオを作り、学習を進める。仲間と交流する中で、楽しみながら運動の基礎となる体力の要素やその高め方を理解するとともに、体力の異なる友達と見合うことで課題を見付けたり、課題解決の方法を考えたり、教え合ったりすることで、深い学びを促す。

○セクステット (※A-4 友達との練り合いや練り上げ)

トリオを二つ合わせたセクステット(6人のグループ)を作ることによって、運動の内容によっては、一緒に運動したり、見合いや教え合いを活発にしたりする。

(3) 思考の深化を図る振り返りの充実

○視点をもった振り返り (※C-1 5 視点・観点・論点を明確にした思考や表現)

「できた」、「できない」だけでなく、「なぜうまくいったのか」、「なぜうまくいかなかったのか」を振り返らせるようにする。

○トリオでの振り返り (※A-4 友達との練り合いや練り上げ)

固定したトリオで、それぞれの運動の様子を振り返り、よくなったところや課題を話し合う。ここまでは、運動中に行う振り返りと考えた。

○個人の振り返り(※C-1 1 学習成果と自己との関わり、C-1 4 R-PDCAサイクルで活動改善)

学習カードに毎時間の学習の振り返りを記入させる。自分で見つけた動きのポイントやなぜうまくいったのかを振り返らせ、深い学びへつなげる。

○学年全体での振り返り (B-7 異なる多様な考えを比較)

学年全体でよい点を共有し、全体としての深まりを図ることで次時の学習に対する意欲を高めるようにする。

授業のまとめの際の振り返りと考えた。

6 単元の指導計画と評価計画 (11 時間扱い)

次	時	○主な学習活動	◇指導上の留意点 ☆評価規準 (評価方法)
一 (知る)	1 ・ 2	体ほぐしの運動 ○用具や場の準備の仕方を知る。 ○学習の進め方を知る。 ○体ほぐしの運動に取り組む。	◇用具の扱い、学習のきまり、学習の進め方を指導する。 ☆用具や場の安全に気を付けて、すすんで学習に取り組んでいる。 関 (観察・学習カード)
	3 ┌ 7	体力を高める運動 ○学習課題の確認をする。 ○体づくり運動について知る。 ○体力について知る。 ○自分の体力の特徴を知る。 ○基になる動きに取り組む。 ○基になる動きの工夫の仕方を知る。 ○学習を振り返る。	◇用具の安全、周囲の確認等を指導する。 ◇何のためにこの運動をするのか、どの運動をすればどんな体力が高まるのかを意識しながら運動できるよう助言する。 ◇基になる動きの工夫の仕方を指導する。 ☆基になる動きの運動の仕方や工夫の仕方に基づいて運動することができる。 運 (観察・学習カード)
二 (高める)	8 ┌ 11	体ほぐしの運動・体力を高める運動 ○学習課題の確認をする。 ○トリオやセクステットで選択した動きに工夫して取り組む。 ※前半は共通の運動、後半はトリオで選択した運動に取り組む。 ○他のグループの動きを見て挑戦する。 ○学習を振り返る。	◇何のためにこの運動をしているのか、どの運動をすればどんな体力が高まるのかを意識しながら運動できるよう助言する。 ◇運動の条件を同じにし、高まりを実感できるようにする。 ◇速さや回転など数値の高まりとともに、「楽にできた」等の体感に気付かせる。 ◇よい動きや、工夫の仕方などは、全体で共有する。 ☆体力を高めるために運動の仕方を工夫することができる。 思 (観察・発言・学習カード) ☆基になる動きの運動の仕方や工夫の仕方に基づいて運動することができる。 運 (観察・発言・学習カード)

7 本時（9時間目／全11時間）

（1）目標

動きのポイントを生かして運動の仕方を考えながら体力を高めることができるようにする。＜運動＞
 友達に言葉をかけたり、補助をしたりして、運動できるようにする。＜関心・意欲・態度＞
 自己の課題を達成するために、運動の行い方を工夫できる。＜思考・判断＞

（2）展開

	主な学習活動 ・ 予想される児童の反応	◇指導上の留意点 ☆評価規準（評価方法）
導入	1 準備運動 2 体ほぐしの運動 ・友達と関わりながら、心と体をほぐす。	◇動かす部位や、ポイントを意識して運動させる。
展開	3 本時のめあての確認 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px 0;"> 体力を高めるために、工夫して運動しよう。 </div> ・トリオで順番にめあてを確認する。 4 用具や場の準備 ・安全に留意して協力して準備する。 5 体力を高める運動 ○巧みな動きを高めるための運動をする。 ・トリオやセクステットで工夫した動きに挑戦する。 ○4つの運動から選択して運動する。 ・トリオやセクステットで選択した動きに取り組む。 <チャレンジタイム> ・今までの動きに継続して取り組む。 ・紹介された動きを試す。	手だて（1） トリオでめあてを確認し、意欲を高める。 ◇短なわ、長なわ、輪、ボールを準備しておく。 手だて（2） トリオで考えて動きを工夫し、見合ったり教え合ったりして、高める。 ◇トリオで取り組ませる。 ◇この運動をすることでどのような体力が高まるのかを意識させる。 ◇工夫の仕方が分からなかったり、動きが停滞したりしているグループには、学習資料に立ち返って考えさせたり、できる児童や工夫しているグループの動きを見せたりする。 ◇いくつかのトリオの動きを紹介し、意欲を高める。 ◇他のトリオの動きに取り組んだり、自分たちが取り組んだ動きをさらに工夫して取り組んだりするよう声掛けをする。
	6 整理運動 ・使用した部位をほぐす。	

	<p>7 振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> 個人での振り返りでは、運動前後の変化やチャレンジタイムについて、振り返る。 全体での振り返りでは、動きに高まりのあった児童を紹介する。 <p>8 片付け</p>	<p>◇運動前後の心と体の変化について振り返らせるとともに、学習の成果、見付けた動きのポイントやこつ、気付き等の視点を示して振り返らせる。</p> <p>◇全体で動きの高まりのあった児童や、更なる工夫を紹介する。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>手だて（3）</p> <p>個人や全体での振り返りにより、動きのポイントや自己の課題に気付かせ、次時への意欲を高める。</p> </div> <p>☆自己の課題を達成するために、運動の行い方を工夫している。</p> <p style="text-align: right;">☒（観察・発言・学習カード）</p>
--	---	--

8 本時のルーブリック評価

	課題に向かう力	運動を振り返り、課題を解決するための思考力・判断力	運動
付けたい力 レベル	自らすすんで取り組む力	運動について考え、判断する力	運動に関して身に付けたい力
レベル3	何度も繰り返し運動し、友達に自分の運動の様子を聞いたり、友達に教えたりする。	自分たちが選んだ動きの工夫の仕方を考え、ポイントを見付けることができる。	基になる動きができ、工夫した動きもできる。
レベル2	何度も繰り返し運動し、友達に自分の運動の様子を聞く。	自分たちが選んだ動きの工夫の仕方を考えることができる。	基になる動きができる。
レベル1	教師や友達に促されて、運動する。	自分たちが選んだ動きの工夫の仕方が分からない。	基になる動きができない。

9 場の設定



